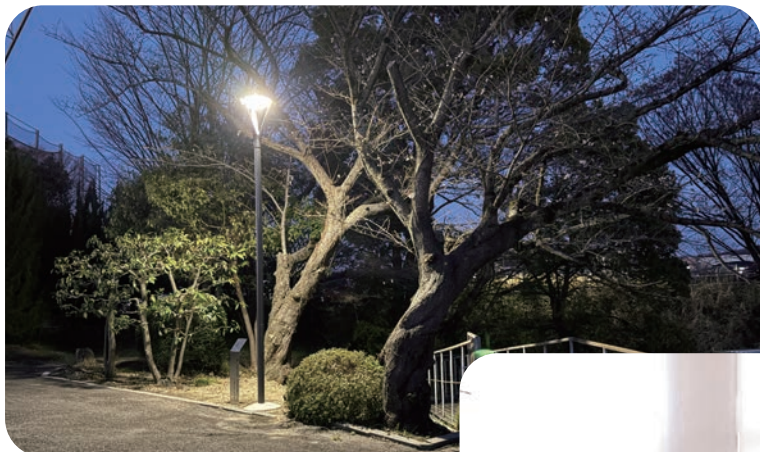


愛知医科大学 学報



令和7年度医学部卒業記念品
街灯（7号館(医心館)北側歩道）



令和7年度看護学部卒業記念品
学生ホール用ロビーチェアー式（看護学部学生ホール）

（関連記事17頁）

＝ 第182号 ＝
2026.4月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

— 愛知医科大学ホームページアドレス —

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

就任ごあいさつ.....	2
令和8年度予算大綱.....	7
令和7年度卒業証書・学位記授与式.....	13
令和8年度入学式.....	18
理事長・学長 所信表明.....	22
時習館高等学校と高大連携に関わる協定締結	27
退職を迎えて.....	31
教授就任インタビュー.....	37
新ドクターカー導入とお披露目会開催.....	53
ドクターヘリ出動件数10,000件到達.....	53



—憧れの先へ、一歩ずつ。—

理事長 羽生田 正行

このたび、祖父江元 前理事長・学長の任期満了に伴い、令和8年4月1日付で愛知医科大学理事長を拝命致しました羽生田正行です。私は、平成15年4月に外科学講座（呼吸器外科）の教授として赴任して以来、23年間にわたり本学とともに歩んで参りました。多くの教職員の皆さまとのつながりは、これから法人運営を進める上で大きな力になると感じています。同時に、そのつながりを生かしながら、本学が抱える諸課題に速やかに取り組まなければならないと考えております。

現在、本学を取り巻く環境は大きく変化しております。少子化、医療制度改革、物価高騰、人件費の増加などの要因が重なり、私立医科大学経営は厳しさを増しております。本学においても、近年様々な事業に積極的に取り組んで参りましたが、財務面では依然として課題を抱えております。このため新執行部が、まず最優先で取り組むべきは、本学の財務基盤の立て直しと考えています。これまでの「規模拡大型」の経営から、「持続可能性」と「全体最適」を重視する経営へ転換していきます。鉛筆1本、ガゼ1枚に至るまでコスト意識を持ち、効率的な組織運営を徹底するとともに、不採算部門については真摯に見直しを進めます。一方で、本学が大学病院として担うべき機能については、決して後退させることなく守り抜いていく所存です。

具体的には最重要課題である財務基盤立て直しのためには、下記の三つの改革が必要と考えています。

1.組織・ガバナンス改革

理事長、学長、病院長それぞれの役割と責任を明確化し、透明性の高い組織運営を実現します。大学の顔は学長であり、研究・教育は学長を中心に推進していきます。理事長は法人運営の立場から、財務・人事面を支え、病院長には病院運営の責任と権限を

明確に付与します。

2.人事・給与制度改革

本学では、令和7年度にこれまで準拠してきた人事院勧告から離脱し、10年先を見据えた「組織・人事給与制度」の全面的見直しを進めています。ほとんどの私立医科大学が既に独自の人事・給与制度を運用している中、本学においても、本学の成長に貢献した人に報いる制度の構築を進めています。教職員の意見も取り入れながら、令和8年度中の制度構築、令和9年度からの運用開始を予定しています。

3.「医師の働き方改革」と愛知医科大学の方針

国が主導する「医師の働き方改革」の中で、医師の時間外労働を一定水準以下にすることが求められています。令和6年度1,785時間以下が求められていた時間外労働時間を、毎年度減少させ2030年度には約半分の960時間以下まで下げることが必須です。これを受けて本院は医師の勤務時間を本年度から月155時間（7時間45分／日）に設定しました。患者さん、ご家族のご理解をいただきながら、勤務時間内に効率的・効果的な診療を行うことで、時間外労働を減らし医師の健康を守っていきます。

現在、愛知医科大学は確かに厳しい局面にあります。しかし、私は本学が必ずこの三つの改革を成し遂げる力があると信じています。また、本学がこれまで築いてきた「人を大切にする文化」は、今後も決して失ってはならない本学の財産です。職員一人ひとりの力が、本学の未来をつくります。皆さまと力を合わせ、この困難を乗り越え、再び成長のステージへ進んでいくことができると信じています。

「憧れの先へ、一歩ずつ。」この言葉を胸に、着実に前へ進んでいきます。今後とも皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



一人を育て、未来を紡ぐ大学へ ～革新と持続可能な発展の実現を目指して～

学長 伊藤 恭彦

令和8年4月1日から学長に就任致しました伊藤です。現在、日本の医療は大きな転換点にあります。働き方改革による労働時間規制、若い世代の価値観の変化、診療報酬制度や物価高騰が医療経済に及ぼす影響に加え、社会構造そのものの停滞が、医療全体に重くのしかかっています。更に、臨床現場の高度化、研究をめぐる国際競争の激化、教育手法の多様化が同時進行する中、本学もまた長いトンネルの中にあると言わざるを得ません。

本学は令和4年に創立50周年を迎えました。今後も「社会から評価され、選ばれる医科大学」、「地域から信頼される大学病院」であり続けるためには、教育・研究・診療のあり方を再設計し、次の時代に相応しい大学へと進化する必要があります。そのため、現在いくつかの改革を段階的に進めていくところです。

まず、「意識改革・無駄とり・効率アップ」を柱とした構造改革に取り組みます。ICTやAIの活用により情報の一元化を図り、慣例のみで継続されてきた業務や紙・押印中心の手続きを抜本的に見直します。無駄や重複を省くことで、限られた資源と時間を本質的な価値創出へ再配分していきます。教育面でもe-learningの拡充を進め、対面授業やアクティブ・ラーニングと組み合わせることで、教育効果の向上と教員の時間創出の両立を目指します。

働き方改革については、これまでの取り組みを土台とし、DX推進体制を整備することで業務効率化を一層進めます。創出された時間は、診療・研究・教育の質向上、新たな挑戦への投資、そして、時間外労働の削減へ有効に活用します。また、全教授との定期的な意見交換を行い、各教室の課題や将来像を共有しながら、ボトムアップ型の大学運営を進めていきます。

教育においては、医師・看護師国家試験100%合格を目標に、医学部長・看護学部長を中心とした全学的な体制で取り組みます。更に、全国的に深刻化する外科系人材不足への対応として、2027年入学者から外科医養成コースの開始を検討しています。従来、外科医育成は各外科系教室に委ねられてきましたが、今後は個々の診療科や現場の努力のみに委ねることなく、大学全体として社会的課題に責任を

持って取り組みたいと考えています。

今日、若手医師の専門医志向は依然として強い一方で、臨床現場では多くの併存疾患を有し、ポリファーマシーの状態にある高齢患者が増加しています。救急の現場においても、このような患者の一次・二次救急が増えているのが現状です。こうした状況に対応するため、総合的診療能力を基盤とし、その上で専門性を発揮できる医師の育成を進めていきたいと考えています。その取り組みの一環として、令和8年5月1日(金)から「総診・内科救急センター」が立ち上がります。学生・研修医教育の段階から、医療の「構造転換」と「意識改革」を進めていきます。研究に関しては、これまで診療負担の拡大に伴い、臨床教室における研究活動が低下していました。大学院生数も減少し、研究人材の不足が顕在化しています。このような状況を踏まえ、臨床教室において「持続的に成果を生み出せる臨床研究実施体制」の構築を目指し、研究支援体制を強化していきます。研究創出支援センターおよび臨床研究支援センターの機能強化を進めるとともに、研究創出支援センターを中心として、従来の講座制に依存した研究体制から、中央集約・コアファシリティ化を志向した体制作りの検討を始めています。

現在、人事・給与制度改革を進めているところです。本改革では、「年功序列から脱却し、貢献した人、努力した人を正當に評価する制度」への転換を目指します。単なる給与制度の見直しに留まらず、評価を通じて職員のモチベーションを高め、組織全体の発展へとつなげていきたいと考えています。令和9年春からの実施を予定しています。

また、大学運営に参画する女性医師は依然として少なく、女性活躍促進にも積極的に取り組んで参ります。併せて、表彰制度の充実や大学公式マスコットキャラクターの制作など、組織の活性化につながる施策も進めていきます。その他にも、様々な改革・活性化策を着実に推進していく所存です。

愛知医科大学は今、重大な岐路に立っています。改革は、教職員一人ひとりの主体的な行動なくして前進しません。輝かしい未来に向け、責任者として全力を尽くす覚悟です。皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



—「新時代」の医学部構築に向けて—

医学部長・医学研究科長 笠井 謙次

引き続き、令和8年4月から2年間の医学部長・医学研究科長を拝命致しました。その結果、令和4年からの計3期6年間の長きにわたり医学部・医学研究科の校務を預かることとなり、大変責任を感じています。改めまして、誌面をお借りして一言ごあいさつ申し上げます。

本学は昭和47年に、「新時代の医学知識、技術を身につけた教養豊かな臨床医、特に時代の要請に応じて地域社会に奉仕できる医師を養成し、あわせて医療をよりよく発展向上させるための医学指導者を養成すること（建学の精神）」を目的に建学されました。AIやデータサイエンスが大きな影響力を持つ「新時代」、人口減少社会、超高齢社会など、これまでの人類が経験したことのない「新時代」においては、当然社会が求める医療は大きく変化しています。更に、私立大学数および医学部定員数の削減を求める財務省の財政制度等審議会の意見が報道されたように、今後は特色のない大学やさしたる教育研究の実績を上げられない大学は、選別の対象になるでしょう。そのため本学が社会からの信頼を得続け、更に発展するためには、我々は何者であるか、何処を目指しているのかを問い直し、本学独自の地位を確立する必要があると考えます。54年前の「建学の精神」にあるように、まさに今こそ「時代の要請」に応える教育研究機関であらねばなりません。頑迷ではなく柔軟に「新時代」の本学の在り様を発揮することが必要です。そして、こうした方針に沿っ

た学生募集、教育プログラム、人材育成、研究開発、地域連携、更には積極的な広報活動が今後益々重要になります。任期2年間でこれらを担当する学内各部局との連携を強化し、本学医学部をもう一段階活性化したいと考えています。

特に医学教育に関して、今年10月には平成31年に引き続き2巡目となる日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価を受審します。運営、実施体制など様々に課題を抱える現在の分野別評価制度ではありますが、これまで改善に向け努力をしてきた教職員のために、そして、何よりも本学で日々学ぶ学生諸君のプライドのためにも、正当に高評価を得たいと願っています。

また、我が国の大学研究力低下が昨今問題視されています。本学でも研究者個人の研究力向上を図るとともに、「愛知医大らしい」研究を先鋭化させなければなりません。従来から意識してきた地域医療と臨床研究の連携や、出口戦略を見据えた基礎研究を推進することが特に求められます。本学のような小規模大学でこれらを実現するためには、学内各研究室や共同研究部門など研究基盤の有機的な連携体制を構築し、ALL愛知医大で研究を推進することが必要だと感じています。今後とも学内議論を活発にして、皆で将来の愛知医科大学医学部の姿を作っていきたいと考えています。

学生や教職員、関係者の皆さまの更なるご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



－看護学部の更なる充実に向けた 連携・協働の促進－

看護学部長・看護学研究科長 若杉 里実

令和8年4月から引き続き2年間の看護学部長・看護学研究科長拝命に当たり、ごあいさつ申し上げます。

愛知医科大学看護学部は、令和7年度に創立25周年を迎え、多くの優秀な看護師・保健師を送り出してきました。令和4年度からは新カリキュラムをスタートさせ、教育理念としては、人間尊重を基盤とした豊かな人間性（Humanity）、社会と人々の暮らしや健康を支える地域性（Community）、国内外の多様な文化と価値観を尊重する国際性（Internationality）、社会の変化や多様な状況・場に対応できる看護実践能力（Professionalism）の四つをコア・コンセプトと位置づけ、看護の発展に貢献し続ける実践者の育成を目指しております。看護学部長・看護学研究科長としての2年間における看護学部の更なる充実に向けて、4点ご説明申し上げます。

第1に看護学部では、令和7年3月17日（月）に提示された改訂版看護学教育モデル・コア・カリキュラムのコンピテンシー基盤型カリキュラムに基づくアウトカム評価が求められています。今後は、中長期的な視座のもと、社会的要請に対応し得る看護実践能力を確実に修得できるためのカリキュラム開発を目指して、コンピテンシー基盤型教育カリキュラムへの転換に向けた準備を進めていきます。

第2に、令和7年度に看護学研究科博士後期課程として、PhDコース（Doctor of Philosophy in Nursing）とDNPコース（Doctor of Nursing Practice）の2コースを同時に開設しました。教育研究分野としては、「基盤看護学」、「成育・療養支援看護学」、「包括・実践看護学」の三つの分野で構成され、専攻領域は、基礎看護学、精神看護学、感

染看護学、母子看護学、成人看護学、老年看護学、地域看護学、在宅看護学、高度実践看護学の九つの領域を有しています。今後は、高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人および研究・開発能力をもつ研究者を育成していく役割を担っていくために、修士課程から博士後期課程までの一貫した博士課程教育のカリキュラムを構築するとともに、教員の指導体制も整えていきます。

第3に、令和7年4月に「ヘルスケア共創センター」を看護学部を設置しました。このセンターの部門員は、看護学部の教員と病院看護部およびNP部の職員で構成され、「ユニフィケーション部門」、「生涯学修支援部門」、「地域連携部門」、「研究部門」の四部門を有しております。看護の学びを深化する場、看護職の未来を創造する場、ヘルスケア推進のために人をつなげる場として、大学・病院・地域が有機的につながりあうプラットフォームとなることを目指していきます。

第4に地域との交流を通じて、学生一人ひとりの「自立性」、「共感性」、「社会性」を育むことを目指した社会貢献プログラム「愛Kind」を開始しました。看護職者として必要な共感性・協働・社会的責任感を育成するとともに、社会人基礎力を涵養し、実践的な学びを促進することを目指していきます。学生が看護職の未来を創造していくことができるように、看護学部の各種委員会およびヘルスケア共創センターとの連携・協働のもと進めていきます。

看護学部の更なる充実に向けて、連携・協働を促進していくには、本学関係者の皆さまのご理解、ご協力が欠かせません。ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



—伝統を礎に、 未来にひらかれた看護教育へ—

看護学部教務学生部長 心光 世津子

令和8年4月1日付けで、看護学部教務学生部長を拝命致しました。

大学教員としては、大阪大学、武庫川女子大学の関西2大学を経て、令和2年度に愛知医科大学に着任致しました。最初の勤務校が母校であったこともあり、当時は大学固有の校風や独自性を十分に意識しておりませんでした。2校目では伝統ある私立総合大学の新設学部において1期生を担当しました。その経験を通して、校風とは新たな学生を迎える中で更新され続けるものであり、建学の精神と教育理念が大学の独自性に深く影響することを学びました。

本学には、看護学部開設20周年の節目に着任し、その後、教務委員長として看護学教育評価にかかる自己点検評価および受審に参画する機会を得ました。昨年度は、これらの経験を踏まえ、令和8年度カリキュラム検討ワーキング長としてカリキュラムの点検および改正に携わりました。伝統ある本学看護学部においても、教学マネジメントを通じて社会の要請や多様な声に向き合い、教育を不断に見直していくことの重要性を実感しております。

さて、急速な少子高齢化やAIを始めとするテクノロジーの進化など、社会情勢の変化を背景に、文部科学省中央教育審議会では「知の総和」の向上を掲げ、自律的に学ぶ力を備えた学修者を育成する教育への転換とともに、高等教育における教育・研究の「質」を一層高める必要性が示されています。看護学教育においても、令和7年3月に「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が改訂され、「何を教えるか」から「学生が何を学び、何をできるようになったか」を重視するコンピテンシー基盤型教育への転換が示されました。加えて、人口減少が進む

中、地域から必要とされる看護人材の育成を担う大学としての役割は、今後ますます重要になると考えられます。

しかし、大学は「職業人に向かって」のみの一方的な場ではなく、学生が社会に出る前の準備期間として、自身の在り方や価値観、将来の方向性を模索する人間形成の場としても重要な役割を担っています。予測不可能な時代を担う看護職者のたまごとして多くの期待が寄せられる中、学生は自分自身に向き合い、時に悩みながら成長していきます。

看護学部の教職員が丸一となり、そうした学生一人ひとりに伴走しながら、看護学部の掲げる四つのコア・コンセプト（人間性Humanity、地域性Community、国際性Internationality、看護実践能力Professionalism）を共に追求していく教育を実践することが、今後ますます台頭するAIでは代替できない「人に寄り添う」看護職者の育成につながるものと信じています。

そのためには、教員にもまた、教育・研究・地域連携において、より高い「質」が求められますが、それを持続的に発揮していくためには、組織や職場環境の観点からも改善を模索する取り組みが重要であると考えています。

これから教務学生部長として、看護学部長を補佐しつつ、学生・卒業生・就職先の声に耳を傾けるとともに教育施策も踏まえ、教職員と協力し合いながら、看護学部の運営の円滑化と看護教育および学生生活の充実に努めて参ります。今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和8年度予算大綱

令和8年度予算が、令和8年3月23日（月）の理事会、評議員会において承認されましたので、お知らせします。

令和の時代が始まって以降、本学は開学50周年という大きな節目を越え、令和元年度から5年度までの中期計画において事業基盤の強化を推し進めてきました。続く令和6年度からは、新たな5か年計画「イノベーション・ストラテジー 2028」を始動させ、「社会から評価され選ばれる医科大学であり続ける」というビジョンの下、教育・研究・診療の各領域において構造転換を図っております。

本中期計画の3年目、振り返り地点を迎える令和8年度は、これまでの投資を確かな成果へと結びつけ、持続可能な経営体質を確固たるものにするための極めて重要な一年となります。

令和8年度予算を編成するに当たり、本学を取り巻く環境を概観すると、医療収入は昨年度に引き続き増収基調にあるものの、物価高騰や人件費上昇圧力といった外部要因にも影響され経費の増大に歯止めが掛からず収益の状況は依然として厳しい局面が続いています。こうした状況下において、令和8年度予算は、これまでの予算編成のあり方を見直し、現状の実績と施策をより直視した、実効性の高い収入総額をベースに、その枠内で優先度の高い事業から支出予算を配分することを徹底した事業計画を取りまとめることとしました。

具体的には、まず医療収入面において、本院では各診療科責任者との緊密な協議に基づき、現場の稼働実態等を精緻に反映し、予算達成可能な額を計上しました。メディカルセンターや眼科クリニックMiRAIについても、過去の実績をベースに堅実な額を計上しました。これらの取り組みの結果、令和8年度の事業活動収入は約665億円を予算計上するに至りました。なお、本年6月の診療報酬改定について、国が示す変革に対応することに重点を置きつつ、現時点で把握している改定情報に基づき計上することとし、最終的には6月に補正予算で調整をすることも視野に入れています。

一方、支出予算においては、構造改革を見据えた経費の見直しの徹底を図りました。令和8年度は空いているポストは原則埋めないなどの人件費抑制策を実施するとともに、日常の業務運営に関わる諸経費についても、単なる数字上の節減を目的とするの

ではなく、慣例的に継続してきた委託業務や各業務の進め方、更には事業計画そのものをゼロベースで見直すという方針を改めて共有致しました。また、研究費や旅費についても、その必要性や配分のあり方を改めて確認し、適切な節減を図りました。限られた経営資源を真に必要な領域へ集中させ、組織全体の効率性を高め、生産性を改善していくための変革を段階的に進めて参ります。

本学の将来を左右する基幹事業や大規模な施設・設備整備、また組織体制の拡充を伴う主要な事業については、優先順位を付した上で、資金収支の状況も踏まえつつ、財務面とのバランスを十分に考慮した上で事業選定を行いました。これらの重要施策については、設定された目標指標に基づき、四半期ごとのモニタリングや常任理事会への進捗報告を徹底することで、計画の実行性と投資に対する成果を確実に担保する仕組みを構築致します。

令和8年度は、これまでの取り組みを通じて整備したインフラを最大限に活用し、本学が安定して成長し続けるための正念場となります。全教職員が現状の課題を共有し、イノベーション・ストラテジー2028に掲げた各戦略を着実に展開することで、地域社会から変わらぬ信頼を寄せられる大学として、次なる成長への歩みを進めていく決意です。

<主な事業>

教育・研究に関するもの

■教育環境の整備

○教育環境向上のための設備更新

- ・看護学部講義・演習等における教育用シミュレータ等を更新する。
 - ・老朽化したC棟講義室の音響機器を更新する。
- ##### ○特定資産を財源とする事業
- ・外国人研究者に対する滞在費助成を実施する。
 - ・医学部若手研究者に対する教育研究奨励助成を実施する。
 - ・看護学部若手研究者に対する研究助成を実施する。

■研究環境の整備

○機材及びシステムの新規導入または更新

- ・法医学解剖に伴う検査機器（ドラフトチャンバー）を再整備する。
- ・法医学解剖に伴う検査機器（LC／MS／MSシ

ステム)のメンテナンスを行う。

■研究活動の活性化

○研究プロジェクトの推進と研究人材の育成

- ・私立大学研究ブランディング事業「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」を継続実施する。
- ・東海がん専門医療人材養成プランに即して研究と臨床を通じて、専門人材の育成を行う。

■教育充実活性化対策

○医学部における教育充実に向けた取り組み

- ・教育の充実化に貢献した講座等に対してインセンティブを支給する。

■看護学研究科博士課程設置

○博士課程設置に伴う環境整備

- ・看護学研究科博士課程設置に伴う環境整備を行う。

■その他

○教育改革を支える制度・体制の整備

- ・医学部教育分野別評価2巡目受審をする。
- ・入試改革に伴う「試験・合格発表システム」の改修、「Web入学システム」の構築を行う。
- ・教員に対して多彩な研修を実施し、全教員に対してスキルアップの機会を多く提供し、継続的な教育改革を実施する。

本院の医療に関するもの

■教員・スタッフの増員

○医学教育体制の強化に向けた教員配置の充実

- ・医学教育センターの体制強化を目的に、講師、助教定数を1名増員する。

○診療体制強化に向けた医療人材の確保

- ・専修医の採用を予定し、中核医師の確保を図る。
- ・新リハビリテーション施設《プロリハ》に係る医療スタッフを5名増員する。
- ・医師の業務負担軽減、診療効率向上を図るため、診療看護師を1名増員する。
- ・臨床研究支援センターに専従CRC 1名を配置し、治験受託体制を強化する。

■診療活性化対策

○麻酔科医の確保

- ・手術件数の確保、GICUにおける安定的な医療体制の維持、麻酔科当直体制の維持を目的として麻酔科医師を確保し、高度な医療を提供する。

○病院長インセンティブの支給

- ・病院長が入院外来診療報酬請求額の前年度対比

を評価指標とし、各種項目を裁量評価することで、成果を挙げた診療科等に病院長インセンティブを支給し、診療の一層の活性化を図る。

○病棟再編事業

- ・現在の患者構成や医療需要に即して病棟再編を行う。

○救急・地域医療連携体制の強化

- ・高度急性期、三次救急機能を維持しつつ総合診療を強化し、一次、二次救急に対応できる体制と人材育成を整備する。併せて受入体制拡充と診療効率向上、地域連携強化を図る。本件は、文部科学省大学病院機能評価事業に「総合医がつなぐ大学病院と地域医療の構造転換」として申請する。

■診療用機器の整備・更新

○高精度放射線治療装置の更新※

- ・高精度放射線治療の増加に対応するため更新をする。

○生体情報モニタリングシステムの更新※

- ・重症患者管理体制維持のため更新を行う。

■その他

○診療体制維持に向けた看護職員の処遇改善

- ・診療看護師(NP)及び看護パート職員に対して、夜勤手当や臨時手当の支給をする。

○社会的要請への対応

- ・2026年アジア・アジパラ競技大会への医療従事者、コンテナ医療ユニットを派遣する。

メディカルセンターの医療に関するもの

■病院システム更新

○電子カルテシステムの安定運用に向けた基盤更新

- ・電子カルテ(クラウドチャート)更新事業(サーバOS更新)を実施する。※

■診療活性化対策

○シャトル便の全便委託

- ・本院とのシャトル便需要の増加が見込まれることから安定運行を維持するため、全便委託へ移行する。

眼科クリニックMiRAIの医療に関するもの

■スタッフの確保

○クラーク(医師事務)の確保

- ・診療の質向上と安定的な運営維持の観点から、既存体制維持のためクラーク(医師事務)2名を確保する。

○広報事業

- ・大学レベルの高度な治療を行う眼科クリニックとして紹介元医療機関の開拓および眼科をお探しの個人への訴求のための各種広告展開を図る。

法人・大学運営に関するもの

■建物修繕

○電源・非常用電力設備の更新工事

- ・中央棟第1無停電電源装置（1系）蓄電池更新工事をする。※
- ・G-2、G-3非常用発電機廃止に伴う改修工事をする。※
- ・構内電力ケーブル更新工事をする。

○昇降機設備の改修

- ・エレベータ劣化部品取替工事を行う。

○監視・管理システムの更新

- ・中央監視設備更新工事を行う。

○駐車場設備の更新

- ・臨時外来駐車場および外来平面駐車場機器の更新を行う。

■その他

○経営改革・イノベーション推進事業

- ・ITの活用や業務見直しを通じて費用削減と効率化を図る。地域医療連携、救急体制改革、働き方改革、財政基盤改革等の各プロジェクトを推進、全学的にイノベーションを創出する。

○教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金

- ・創立50周年記念募金終了後の新たな取り組みとして、教育、研究、診療の基盤強化を目的とした事業募金を実施する。本事業では、在校生保護者、卒業生、法人等からの寄附およびふるさと納税を活用する。

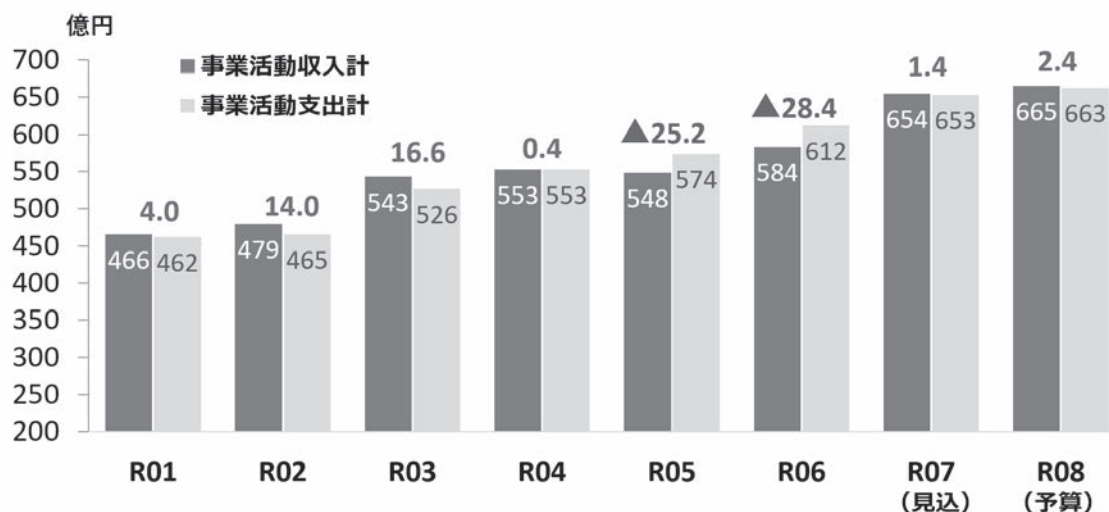
※印を付した事業については、令和7年度からの予算繰越事業として実施するものである。

令和8年度の予算状況は、

事業活動収入 665億1,239万円余円

事業活動支出 662億7,495万円余円

となっており、**事業活動収支差額は、2億3,743万円**の黒字となっています。



※R01～R06年度は決算額，R07年度は12月補正後予算額(賞与引当金繰入額21億1827万円を除く)である。

※各年度のグラフ上部の数字は基本金組入前当年度収支差額である。

事業活動収支予算では、収入66,512百万円（前年度比1.7%増）、支出66,275百万円（前年度比1.7%減）となり、収支差は237百万円の黒字予算となっています。

資金収支予算では、学生生徒等納付金収入4,938百万円、寄付金収入307百万円、補助金収入2,299百万円、医療収入57,259百万円などで資金収入合計

は67,012百万円となっています。

一方、人件費支出25,102百万円、教育研究費支出34,883百万円、管理経費支出923百万円、施設関係支出471百万円、設備関係支出2,139百万円、借入金等返済支出1,391百万円などで資金支出合計は60,431百万円となっています。

資 金 収 支 予 算

令和8年4月1日から

令和9年3月31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部			
科 目	本年度予算	前年度（12月補正後）予算	増 減
学生生徒等納付金収入	4,937,920	4,917,135	20,785
手数料収入	166,412	198,618	△32,206
寄付金収入	306,860	374,360	△67,500
補助金収入	2,299,018	2,522,375	△223,357
資産売却収入	900	0	900
付随事業・収益事業収入	725,620	920,706	△195,086
医療収入	57,259,091	55,653,331	1,605,760
受取利息・配当金収入	9,200	9,550	△350
雑収入	778,276	803,043	△24,767
借入金等収入	100,000	2,042,000	△1,942,000
前受金収入	935,796	920,871	14,925
その他の収入	9,743,202	10,176,664	△433,462
資金収入調整勘定	△10,250,303	△10,191,935	△58,368
前年度繰越支払資金	6,488,055	4,761,060	
収 入 の 部 合 計	73,500,047	73,107,778	392,269
支 出 の 部			
科 目	本年度予算	前年度（12月補正後）予算	増 減
人件費支出	25,101,776	24,451,155	650,621
教育研究経費支出	34,882,825	34,098,290	784,535
管理経費支出	923,433	1,050,880	△127,447
借入金等利息支出	239,907	217,788	22,119
借入金等返済支出	1,390,614	1,093,233	297,381
施設関係支出	470,900	1,216,790	△745,890
設備関係支出	2,139,002	2,443,334	△304,332
資産運用支出	100,000	150,000	△50,000
その他の支出	6,508,496	6,826,072	△317,576
〔 予 備 費 〕	500,000	500,000	0
資金支出調整勘定	△5,825,964	△6,860,916	1,034,952
翌年度繰越支払資金	7,069,058	7,921,152	△852,094
支 出 の 部 合 計	73,500,047	73,107,778	392,269

事業活動収支予算

令和8年4月1日から

令和9年3月31日まで

(単位：千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度（１２月補正後）予算	増 減	
		学生生徒等納付金	4,937,920	4,917,135	20,785	
		手数料	166,412	198,618	△32,206	
		寄付金	308,860	376,360	△67,500	
		経常費等補助金	2,152,760	2,328,775	△176,015	
		付随事業収入	725,620	920,706	△195,086	
		医療収入	57,259,091	55,653,331	1,605,760	
		雑収入	778,276	803,043	△24,767	
		教育活動収入計	66,328,939	65,197,968	1,130,971	
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度（１２月補正後）予算	増 減	
人件費		25,164,727	26,750,662	△1,585,935		
教育研究経費		39,241,440	38,641,542	599,898		
管理経費		1,293,613	1,453,474	△159,861		
徴収不能額等		15,272	0	15,272		
教育活動支出計		65,715,052	66,845,678	△1,130,626		
教育活動収支差額			613,887	△1,647,710	2,261,597	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度（１２月補正後）予算	増 減	
		受取利息・配当金	9,200	9,550	△350	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	9,200	9,550	△350	
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度（１２月補正後）予算	増 減	
		借入金等利息	239,907	217,788	22,119	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	239,907	217,788	22,119	
	教育活動外収支差額			△230,707	△208,238	△22,469
	経常収支差額			383,180	△1,855,948	2,239,128
特別収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度（１２月補正後）予算	増 減	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	174,258	221,600	△47,342	
		特別収入計	174,258	221,600	△47,342	
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度（１２月補正後）予算	増 減	
		資産処分差額	20,000	40,000	△20,000	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	20,000	40,000	△20,000	
	特別収支差額			154,258	181,600	△27,342
	〔予 備 費〕			300,000	300,000	0
基本金組入前当年度収支差額			237,438	△1,974,348	2,211,786	
基本金組入額合計			△2,917,248	△4,100,000	1,182,752	
当年度収支差額			△2,679,810	△6,074,348	3,394,538	
前年度繰越収支差額			△89,118,584	△80,542,556	△8,576,028	
基本金取崩額			0	0	0	
翌年度繰越収支差額			△91,798,394	△86,616,904	△5,181,490	

(参考)

事業活動収入計	66,512,397	65,429,118	1,083,279
事業活動支出計	66,274,959	67,403,466	△1,128,507

ふるさと納税（寄附）及び教育・研究・診療の 基盤整備（施設・設備）事業募金ご協力のお願い

ふるさと納税（寄附）について

長久手市は「ふるさと納税（寄附）制度」を活用し、市内の大学の支援を開始しました。ふるさと納税制度を通じて、実質2,000円の負担（控除上限額は年収と家族構成により各個人異なります。）で、直接「愛知医科大学」を支援いただけます。寄附金は未来の医療人育成を中心に、教育研究活動の推進に資する事業に活用いたします。

ふるさと納税（寄附）の御礼

市からの返礼品はありませんが、大学から心ばかりの御礼を贈呈します。

1 ふるさと納税での寄附金額が1万円以上の方 愛知医科大学オリジナルグッズから1点



キーホルダー



手提げ袋



クリアファイル・
ボールペンセット



フェイスタオル



ワイヤレス充電器



2 ふるさと納税での寄附金額が5万円以上の方 上記1に加え、院内又は学内食堂食事券などから 1点（なお、5万円増すごとに1点ずつ加算して 贈呈します。）



ブルネエズ株式会社と本学共同開発のハンドクリーム



病院レストラン「シトラス」
食事券1セット（定食×2食分）



大学本館1階食堂「オレンジ」
食事券1セット（日替ランチ×5食分）

3 ふるさと納税での寄附金額累計が200万円以上の方

本院でのプレミアム人間ドックの受診



※ふるさと納税の御礼1、2を受ける場合は、同御礼3の寄附金額累計に加算されませんのでご注意ください。

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備） 事業募金について

- ① 募金目的 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業
- ② 募金1口の金額 個人：1万円 法人：5万円
- ③ 税制優遇措置
個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択
法人：受配者指定寄付金制度等

寄附の顕彰

- ① 広報誌・HP等での寄附者の御芳名（個人名、法人名）
- ② 個人10万円以上（累計）、法人50万円以上（累計）寄附者御芳名（プレート）
- ③ 個人100万円以上（累計）寄附者御芳名（タイル）

寄附の方法

<書面（郵送）>

・本学HPから必要な書類をダウンロード又は資金出納課までご連絡いただければご郵送いたします。

<インターネット>

・本学HPからお申込みいただき、クレジットカード、コンビニエンスストア等を利用するお支払いが可能です。

より詳しい詳細はQRコード
からご覧になれます！



教育・研究・診療の基盤整備
（施設・設備）事業募金



ふるさと納税

●お申込み・お問い合わせ ご不明点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

学校法人愛知医科大学 財務管理室 資金出納課 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL：0561-63-1062（受付時間8：30～17：15 土日祝日を除く）✉ sikin@aichi-med-u.ac.jp

令和7年度愛知医科大学卒業証書・学位記授与式

医学部・看護学部卒業証書・学位記授与式



令和7年度卒業証書・学位記授与式が、令和8年3月7日（土）午前10時から大学本館たちばなホール

告 辞

学長 祖父江 元



医学部、看護学部の課程を無事修了し、本日ここに卒業式を迎えられた皆さんに心からお祝い申し上げます。また、多くの保護者の皆さまにもご臨席を賜りました。一部の保護者の方には別室でのご参加となり大変ご不便をおかけしております。改めて学長として心よりお祝い申し上げます。

皆さんは、本学での学生生活の大半を、新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の状況の中で過ごされた世代です。入学直後から授業の多くがオンラインとなり、実習も思うように行えない時期が続きました。大学生活において本来大切な、友人と直接会い、語り合う機会も大きく制限されました。そうした困難な環境の中でも努力を重ね、本日この日を迎えられた皆さんに、改めて敬意を表し、お祝いを申し上げたいと思います。これから皆さんは社会人として、また医療に携わる専門職として新しい人生を歩み始めます。この門出を心から祝福するとともに、医学部と看護学部それぞれの卒業生に向けて、私から期待を込めてお祝いの言葉を述べたいと思います。

皆さんは、本学での学生生活の大半を、新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の状況の中で過ごされた世代です。入学直後から授業の多くがオンラインとなり、実習も思うように行えない時期が続きました。大学生活において本来大切な、友人と直接会い、語り合う機会も大きく制限されました。そうした困難な環境の中でも努力を重ね、本日この日を迎えられた皆さんに、改めて敬意を表し、お祝いを申し上げたいと思います。これから皆さんは社会人として、また医療に携わる専門職として新しい人生を歩み始めます。この門出を心から祝福するとともに、医学部と看護学部それぞれの卒業生に向けて、私から期待を込めてお祝いの言葉を述べたいと思います。

まず、医学部をご卒業される皆さんにお話しします。皆さんはこれから2年間の初期臨床研修を経て、

ルにおいて挙行されました。【写真】

初めに、祖父江元 学長、笠井謙次医学部長及び若杉里実看護学部長から、医学部卒業生110名、看護学部卒業生95名の卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されました。続いて、祖父江学長からの告辞が述べられ、公益社団法人愛知県看護協会の三浦昌子会長、医学部後援会の加藤雅通会長、医学部同窓会の福澤嘉孝会長及び看護学部父母会の田上寛会長から祝辞が述べられました。

この後、在学生を代表して医学部5学年次生の竹澤遥輝さんから送辞が、卒業生を代表して看護学部の山口雅さんから答辞が述べられ、式は終了しました。

それぞれが志望する専門領域の研修へ進まれることでしょう。専門医として高度な知識と技術を身につけることは極めて重要です。しかし同時に、ぜひ「General Physician」、すなわち総合医の視点を持つ医師であってほしいと願っています。欧米諸国などでは、卒業後に専門医と総合医に明確に分かれる仕組みになっています。総合医はFamily Medicineを担い、地域住民の健康を長期にわたり見守るとともに必要に応じて専門医へ紹介します。一方、日本では多くの医師が専門医コースに進むため、一人の医師の中に専門医としての能力と総合医としての視点の両方が求められるという特徴があります。

現在、日本では高齢化が急速に進み、一人の患者さんが複数の疾患を抱えることが当たり前の時代になりました。病気と付き合う期間も長くなり、病態も複雑化しています。例えば私の専門である神経内科のパーキンソン病を例に挙げると、私が研修医だった頃と比べて患者数は恐らく10倍以上に増加しています。発症から20年以上が経過する患者さんも珍しくなく、認知症、神経障害、心不全や腎不全など、多様な合併症が現れます。このような状況に対応するためには、専門的な知識だけではなく、患者さんの全身を見渡す総合医としての力が不可欠です。また、救急医療の現場でも、高齢化の影響により一次・二次救急の患者数は急増しており、幅広い疾患に対応できる総合的な能力が求められています。こ

のような総合医は地域を支える医師としても大変期待されており、今後更なる活躍の場が増加すると考えます。

こうした背景を踏まえ、本学では専門医の育成に加え、総合医としての基盤をもつ医師を育てる新しい取り組みを進めています。今年から、一次・二次救急、総合診療、内科診療を組み合わせた新しい部門の設立を進めています。救急医療を中心に、総合診療と内科診療を融合させた教育体制を整え、「幅広い診療能力を持つ医師」を育てることを目指しています。これは全国の大学の中でも先駆的な試みです。総合医志向の若手医師の受け皿になりたいと考えています。将来のキャリアパスの一つとして、こうした総合医の道もぜひ視野に入れていただきたいと思います。

次に、看護学部の卒業生の皆さんにお話しします。近年、看護師の活躍の場は大きく広がっています。高度な手術医療、急性期医療、慢性期医療、地域医療だけでなく、研究、行政、教育など多様な分野で看護師の役割はますます重要になっています。医療の高度化と社会のニーズの変化に伴い、看護職の専門性は医学の領域を超えて発展しています。

その中でも注目されているのが、Nurse Practitioner (NP) です。NPは一定の教育と条件の下で、医師のみが行っていた医療行為の一部を担うことができる高度実践看護師です。欧米では医療現場になくてはならない存在となっており、医療提供体制を支える重要な役割を果たしています。

本学では4年前からNP教育の改革を進めてきました。看護部から独立した部門としてキャリアパスを整備し、待遇や教育内容も大きく改善しまし

た。更にNPコースの定員数を拡充し、より実践的な教育プログラムへと発展させています。また、昨年には看護学研究科に博士課程が開設され、その中心となるのがNPの博士課程、すなわちDoctor of Nursing Practice (DNP) コースです。修士課程と博士課程の双方を備える大学として、本学は日本のNP教育や実践活動、更に日本のNPのあり方などを企画・リードする存在になりつつあります。全国的にもNPを希望する人が集まってきています。将来のキャリアの選択肢の一つとして、こうした道もぜひ心に留めておいてください。

最後に一つお話しします。明治時代、日本の医学の発展に大きく貢献し、「ビタミンの父」とも呼ばれる高木兼寛という人物がいます。東京慈恵会医科大学の創設者であり、同時に日本で最初の看護学校を設立した人でもあります。彼は、「医師と看護師は車の両輪のごとし」という言葉を残しました。現在では当たり前の考え方ですが、明治の時代にこの理念を示したことは実に先見的であり、医療の本質をよく表していると思います。

本日お話しした総合医の育成、そしてNP教育の発展は、いずれも本学が全国に先駆けて取り組む挑戦です。こうした新しい試みを通じて大学の価値は高まり、社会への貢献も広がっていきます。皆さんもぜひその一員として、この流れに加わり、医療の未来を担っていただきたいと思います。

改めまして、本日のご卒業を心よりお祝い申し上げます。皆さんの今後のご活躍を心から期待しております。

本日は、誠におめでとうございます。

送 辞

医学部5学年次生 竹澤 遥輝



寒さも緩み、春の日差しに暖かさを感じる今日この頃、本日卒業を迎えられた皆さんに、在学生一同心よりお喜び申し上げます。

皆さんが本学に入学されたのは、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった頃でした。突然のオンライン授業、制限された実習、

友人と顔を合わせることさえ難しい日々。不安と戸惑いの中で始まった大学生活は、決して思い描いていたものではなかったと思います。

医療を志して入学されたにもかかわらず、医療現場に立ち入ることすらままならない時期が続きました。医学部の皆さんにとっては、基礎医学の学修から臨床実習に至るまで、これまでにない形で行われ、学びの質を保つために自ら工夫し続ける必要がありました。看護学部の皆さんも、患者さんと直接関わる実習の機会が制限される中で、看護とは何かを問

い続けながら学びを積み重ねてこられたことと思います。そのような困難な状況にあっても、皆さまは歩みを止めることなく、今こうして卒業の日を迎えられました。その姿は、私たち在校生にとって大きな励みであり、誇りです。

皆さまは卒業後、それぞれ異なる立場で医療に携わっていかれますが、同じ「患者さんのために」という思いを共有する仲間です。本日ここにいらっしゃる皆さまが、それぞれの道で再び出会い、支え合いながらより良い医療を築いていかれることを、

答 辞

看護学部卒業生 山口 雅



冬の厳しい寒さも少しずつ和らぎ、穏やかな春の日差しが、心地よく感じられる季節となりました。本日は、私たち卒業生のために、このような素晴らしい式を挙げて

いただきましたことに心より感謝申し上げます。また、ご臨席賜りました皆さまに、卒業生一同、厚く御礼申し上げます。本日、私たち205名は、本学を卒業致します。

振り返れば、新たな生活への期待と不安を抱きながら入学した日のことが、懐かしく思い出されます。4月のオリエンテーション、初めての病棟での実習に大変緊張したこと。毎日の講義や演習、定期試験など目まぐるしい日々を追われ、時にはつらいこともありましたが、今日という日を無事迎えられたのは、医療という分野に進む私たちに知識と技術を与え、熱心にご指導くださった先生方、共に学び、多くの時間を過ごした友人、道を示してくださった先輩方、慕ってくれる後輩、そして何より私たちをここまで大切に育て、大人になったもののまだまだ子供な自分たちの手を引くのではなく、一歩後ろから支え、温かく見守り続けてくれた家族の存在があったからこそだと深く実感しております。

臨床の現場で患者さんと向き合う中、自分が思い描く関わりができず、この職業の難しさと自分の未熟さを痛感し、葛藤することもありました。また、

心より願っております。

私たち在校生も、皆さまの背中を追いかけて、一日一日の学びを大切に、成長して参ります。そしていつの日か、同じ医療者として現場で一緒にできる日を楽しみにしております。最後になりましたが、皆さまのこれからのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、送別の言葉とさせていただきます。

本日は、ご卒業誠にありがとうございます。

この道を志した自分の選択が正しかったのかと迷いが生じたこともありました。それでも私たちは、多くの患者さんとの出会いや、「ありがとう」という言葉と笑顔に支えられながら、今日まで歩みを続けてくることができました。決して感謝されることが目的で、この世界に飛び込んだわけではありませんが、患者さんの人生に寄り添い、支え、励ましていけるこの職業が、どれほど意義深く、尊い仕事であるのかを身をもって実感致しました。

私たちはこれから、社会人としてそれぞれ新たな道を歩み始めます。人の生命に携わる立場になることへの責任感や緊張感もありますが、本学で培った多くの学びや経験、人とのつながり、そして何より人を想う心を胸に、あらゆる困難にも立ち向かい、乗り越えていきたいと思います。そして、医療従事者として、また一人の人間として成長し続けることができるよう日々精進して参ります。

最後になりましたが、学長先生、ご来賓の皆さま、在学生の方々に御礼申し上げますとともに、お世話になりました先生方、地域の皆さま、多くの患者さん、医学部後援会、看護学部父母会、同窓会、大学職員・病院職員の皆さま、そして、これまで惜しみない支援をして見守ってくれた家族に、卒業生一同、深く感謝し、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。そして、本学の更なるご発展を祈念致しますとともに、本学の卒業生であるという誇りを胸に、その名に恥じぬよう社会への貢献に努めて参りますことを誓い、答辞とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

令和7年度医学部卒業謝恩会開催

令和8年3月7日（土）午後6時から、名古屋東急ホテルにおいて、教職員及び保護者の方をお招きして、令和7年度医学部卒業生による卒業謝恩会が盛大に開催されました。

第一部では、始めに卒業生代表から謝辞が述べられ、続いて祖父江元 理事長・学長からお祝いの言葉をいただきました。その後、保護者を代表して医学部後援会の加藤雅通会長から御礼の言葉があり、鈴木耕次郎医学部教務部長による乾杯の発声により会が始まりました。次に、医学部同窓会の福澤嘉孝会長からお祝いの記念品が贈呈され、笠井謙次医学部部長、鈴木教務部長、宮本淳医学部学生部長に花束が贈呈されました。また、定年退職される教授には最終講義の写真パネルが贈呈されたほか、卒業生の投票によるベストティーチャー賞の表彰が行われました。



卒業生による花道

第二部では、全員参加によるクイズ大会が行われ、恒例の「思い出の写真」では卒業生一人ひとりの思い出の場面が紹介されるたびに、大きな歓声が上がりました。

最後に、卒業生全員で花道を作り、教職員及び保護者の方をお見送りして謝恩会は終了しました。

令和7年度看護学部卒業パーティー開催

令和8年3月11日（水）午後6時30分から、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、令和7年度看護学部卒業パーティーが開催され、卒業生及び教職員が出席しました。本行事は、第1期生から続く伝統ある催しであり、コロナ禍により一時休止していましたが、従来の「謝恩会」から装いを新たに、令和6年度に5年ぶりの「卒業パーティー」として復活し、令和7年度はその2年目として開催されました。教職員と卒業生が一堂に会し卒業を祝い、新たな門出を祝福する会となりました。

当日は、オープニングムービーとともに卒業生が入場し、若杉里実看護学部長の祝辞、泉雅之教務学生部長の乾杯のご発声がありました。会場には恩師や仲間との語らいが広がり、4年間の思い出ムービー上映、ビンゴゲーム、学生代表による教職員への感謝の言葉と花束贈呈が行われました。終盤には、



恩師との記念撮影

当日の様子をまとめたハイライト動画も上映され、最後は基礎看護学の篠田かおる教授から、卒業生の門出を祝う締めくくりの言葉が贈られて会は和やかな雰囲気で行われました。

卒業生にとってかけがえのない学びの日々を振り返るとともに、教職員と節目を分かち合う、心に残るひとときとなりました。

街灯寄贈

令和7年度医学部卒業生からの卒業記念品として、7号館（医心館）北側歩道に「街灯」が贈呈され、令和8年3月7日（土）の卒業証書・学位記授与式終了後に除幕式及び点灯式が行われました。【写真】

当日は、祖父江元 学長、笠井謙次医学部長、宮本淳医学部学生部長を始めとした学内役職者に加え、医学部後援会からは加藤雅通会長が、卒業生からは代表者の松平頌子さんを始め多数の卒業生が出席しました。

松平さんからは「講義や実習、部活動、そして国家試験対策に励んだ日々の中で、私たちは幾度となくこの道を行き来して参りました。互いに励まし合い、仲間と共に歩んだ日々は、6年間の大切な思い出として心に刻まれております。そのような時間を重ねたこの道が、これからも本学に集う全ての皆さまにとって日々の通学や実習を終えて帰路につくそ



の道が少しでも安全で温かな光に包まれる場所となればという願いを込めて街灯を贈ります。この灯りが、これからも本学で学ぶ後輩たちの歩みを優しく照らし続けることを心から願っております」と贈呈の言葉がありました。

その後、祖父江学長から御礼の言葉が述べられ、除幕式は終了しました。

学生ホール用ロビーチェア一式寄贈

令和7年度看護学部卒業生からの卒業記念品として、「学生ホール用ロビーチェア一式」が寄贈され、令和8年3月18日（水）午前10時30分から、看護学部学生ホールにおいて除幕式が行われました。【写真】

除幕式には、祖父江元 学長、若杉里実看護学部長、泉雅之教務学生部長を始め、本学役職者、看護学部教員及び令和7年度卒業生が参加しました。

初めに、卒業生を代表して岩橋愛果さんから、「日々の学びの中で仲間と語り合い、時には悩みや思いを共有しながら互いに支え合い、絆を深めていってほしいという願いを込めました。看護を学ぶ学生にとって、仲間とともに考え、励まし合う時間は、専門職として成長していく上で大切な学びの一つであると感じています。また、忙しい学生生活の合間に心を休め、温もりを感じるひとときを過ごす



ことができる場となることを願っています」との言葉をいただき、続いて、祖父江学長、若杉看護学部長から御礼の言葉が述べられました。

この度、卒業記念品として、令和7年度卒業生の温かい思いが込められた「ロビーチェア」が設置され、愛知医科大学看護学部の新しい安らぎの場所が誕生しました。

令和8年度愛知医科大学入学式

医学部・看護学部入学式



令和8年度入学式が、令和8年4月5日（日）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

初めに、伊藤恭彦学長からの式辞があり、220名（医学部116名、看護学部104名）の新入学生を代表して医学部の青木和奏さんから、「学則並びに諸規則を守り、先生方の御指導に従い、本学学生としての自覚を持ち、勉学に励むことを誓います」との宣誓が行われました。その後、羽生田正行理事長及び来賓の愛知県看護協会の三浦昌子会長、医学部後援会の加藤雅通会長、看護学部父母会の田上寛会長並びに医学部同窓会の福澤嘉孝会長から祝辞が述べられました。

最後に、在学を代表して看護学部4学年次生の伊賀美尋さんから「入学式を迎えられた皆さまは、医療者への第一歩を踏み出すことに、期待と希望を抱いておられることと思います。しかし、その道のは決して平坦ではなく、時には困難や不安に直面することもあるでしょう。そのような時には、一人で抱え込まず、周囲の仲間や先輩、そして先生方を頼ってください。医療に携わる者にとって、人との関わりは何よりも大切です。学生生活の中で出会う一つひとつのご縁を大切に、相手の思いに寄り添い、理解しようとする姿勢を育ててください」と歓迎の辞が述べられ、式は終了しました。



宣誓を述べる青木さん



伊賀さんからの歓迎の辞

式 辞

学長 伊藤 恭彦



本日ここに心晴れやかに入学の日を迎えた新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。本学の教職員を代表して、皆さんを心から歓迎致します。また、今日とい

う素晴らしい日を心待ちにされていたご家族の皆さまにも心よりお慶びを申し上げます。このたび、晴れて入学式を迎えることができたのも、ご家族、先生方の温かい励ましのお陰があると思います。このことも胸に刻みながら、愛知医科大学の一員としての自覚を持ち、ぜひ実りある素晴らしい学生生活

を過ごしてください。

本学は1972年に建学されています。建学の精神は「新時代の医学知識・技術を備えた教養豊かな臨床医を養成する」、「時代の要請に応じて地域社会に奉仕できる医師を養成する」、「医療をよりよく発展向上させるための医学指導者を養成する」となっています。

本学の医学部では、6年間の教育課程を通じて、医学的知識と臨床技術、そして医師としての倫理観と人間性を段階的かつ体系的に勉強していただきます。カリキュラムは、基礎医学から臨床につながる内容まで段階的に積み上げる構成となっています。

1 学年次から「早期体験実習」、「社会医学実習」、「地域医療実習」といった実習がカリキュラムに組み込まれ、実際の医療現場を学修の出発点にしています。臨床医学の土台となる解剖学は、1 学年次から開始となります。中・高学年に進むにつれ、基礎医学、臨床医学を統合的に学びながら、実際の医療現場での実習を経験し、医療チームの一員としての自覚と責任を育みます。

看護学部では、「豊かな人間性」、「地域性」、「国際性」、「看護実践能力」の四つのコア・コンセプトを軸に、看護専門職として基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学べるようなカリキュラムとなっています。本学の教育を支えるのは、臨床・研究・教育のいずれにおいても経験豊富で熱意ある教員陣です。学生一人ひとりの学びに向き合い、きめ細やかな指導と支援を受けることができます。

これから皆さまが大学で学ぶそれぞれの6年間、4年間に、私が感じていることをアドバイスとして少し述べてみたいと思います。

第1は、自ら考える姿勢を身につけていただきたいということです。これまでは、試験問題が提示され、模範解答がある問題を解いていました。医学・診療では、患者さんと接し、何が問題かを見つめることから診療は始まり、短時間で対応する力が求められます。医学を超えたコミュニケーション能力もこのためには必要になります。また、数学の問題を解くようにクリアに答えが出てきません。答えがない、あるいは正解が一つとは限らないことも多く、治療方針においては、様々な点の重み付けで決めなければならないことも出てきます。このような点に関しては、今日患者さん、家族と話し合いをして方針を決める共同意思決定SDMの重要性も言われ、コミュニケーション能力とともに取りまとめる力も必要になります。6年間で、「総合的な考え対応する力」をつけていただきたいと思います。

第2は、2017年4月に定められた学是「具眼考究」を実践していただきたいというお願いです。パネルが、1階のホールに掲げられていますので、ゆっくり見ていただければと思います。また、ホームページにも掲載されています。「具眼」は「正しくみる」、「真髄をみる」ことですが、様々なみるという意味を含み、全人的に患者を把握する感性を意味する「考究」は「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく適切に対処して究めることを指します。本学における教育のバックボーンとして、深く

心に刻み歩んでいただきたいと思います。

第3として、このためには基礎知識が必要です。1 学年次から解剖学、生理学が始まります。同様に、看護学部では、形態機能学、生命科学という名称で講義が始まります。基礎的知識があつてこそ、臨床への理解につながります。多くの学生さんは、丸暗記の方向に傾きがちになりますが、医学を理解するのは病態生理、解剖から理解しないと本当の医学は理解できません。本学では、練られたカリキュラムが作られていますので、基礎からしっかり勉強していただきたいと思います。

第4は、今日の医療事情も知っていただきたいと思います。今日の日本は、少子高齢化という大きな課題があります。これに伴い、疾病構造が大きく変わってきています。厚生労働省は、85歳以上の増加と人口減少が進む2040年とその先を見据え、全ての地域・世代の患者が、適切に医療・介護を受けながら生活が可能な医療体制の構築を目指しています。また、「治す医療」と「治し支える医療」の役割分担も含め、地域完結型医療を目指すことを謳っています。高齢患者は、併存疾患を多くもちあわせ、ポリファーマシーであることが特徴です。1臓器を診るだけではなく、全身を診る力がないと患者さんを元気にすることができません。全身を診る力、姿勢を付けたうえで、専門をもつことがこれからの時代必要であることを念頭におき学んでください。全身を診るという心掛けを忘れないでください。一方、先端医療もますます進歩しています。先端医療の勉強も必要です。臨床の現場で、見て、聞いて学んで欲しいと思います。

第5に、「色々な人と交わり、人との出会いを大切にし、友人を持つこと」を心掛けて欲しいと思います。学年やクラブ活動などを通じて、互いに高め合い支え合う人間関係が築かれ、それは医師としての将来においても大きな財産となるでしょう。

最後になりますが、医師、看護師の仕事は社会貢献であるという気持ちをもっていただきたいということです。常にFor the public、For the patientsという心を持ち、またFor the universityの心で本学を母校として大切にしてください。医療は社会貢献であるということを胸に、生涯にわたって学ぶ姿勢、社会貢献を実践する姿勢を6年間で学んでいただきたいと思います。

本日は、ご入学誠にありがとうございます。



今日のこの良き日に、医学部、看護学部へご入学された新入生の皆さん、そして、これまで温かく支えてこられたご家族の皆さまに対し、心よりお祝い申し上げます。また、

本邦に数多ある医療系大学の中から本学を選び、入学してくださったことを理事長として心より感謝申し上げます。

今日まで皆さんは、並々ならぬ努力を重ね、厳しい入学試験を見事に突破し、この晴れの舞台に立っています。その揺るぎない学習意欲と、医療人を目指す強い情熱に対し、深く敬意を表します。皆さんのその努力と忍耐力は、これからの大学生活、そして医療の道へと進む上で、きっと大きな力となることでしょう。

本学は令和4年に創立50周年を迎えました。これまで多くの卒業生を輩出し、現在も様々な部門・部署で活躍しています。桜の花が美しく咲くこの季節に、皆さまが歴史あるこの愛知医科大学の一員となり、希望に満ちた輝かしい大学生活がここで幕を開けることを、本当に喜ばしく思っています。

さて、皆さんがこれから学ぶのは、人の命と健康に深く関わる専門知識と技術です。しかし、本学の教育は、その専門分野とともに、皆さんの人間性を豊かにする幅広い「教養」教育も重視しています。一見すると、医学・医療とは関係ないように思えるかもしれませんが、教養科目を学ぶことは、物事を多角的に捉え、深く考察する力を養う上でとても大切と考えています。また、同時に大学生活では多くの仲間と出会い、様々な経験を積む、人生の中でのかけがえのない時間でもあります。友人との交流、クラブ活動、ボランティア活動などの経験を通じて、人間関係を築き、社会性を養うことは、将来、チームの一員として医療を行う上で非常に重要になります。一つひとつの経験が、皆さんの人間的成長を促し、将来、医療人として患者さんの痛みに寄り添い、共に苦難を乗り越えるための「糧」となります。楽しさも苦しさも、全てが皆さんの血となり肉となることを信じて、どのような経験も前向きに受け止めてほしいと願っています。

今述べたことと深く関係する言葉があります。皆さんには必ず知っていただかなければならない本学の学是「具眼考究」です。これは、「物事の本質を深く見極め、常識や既成概念に捉われず、常に探求し続ける」という、本学の教育・研究の精神を表しています。

この「具眼考究」の精神は、皆さんのこれからの学びに、そして将来、医療の現場で働く上で最も大切な指針となるでしょう。教科書通りの知識だけでなく、患者さんの訴えの奥に隠された真の原因を見抜く力。既成の治療法に満足せず、より良いケアのあり方を追求する探求心。あるいは、AIが進化する現代において、データだけでは読み取れない患者さんの感情や状況を深く理解し、的確な判断を下す力。これらこそが「具眼考究」の精神そのものです。常に「なぜ」を問い、本質を見極めようとする姿勢は、皆さんが未来の医療を切り拓く上で、必ずや大きな武器となるはずです。もう一度言います。本学の学是は「具眼考究」です。大学生活だけではなく、これからの医療人としての人生の中でも、様々な方向と方法からしっかり物事を見て、それに基づいてよく考える習慣をつけていただきたいと願っています。

色々申し上げましたが、新入生の皆さん、これから始まる学生生活は、人生において最も楽しい時間の一つとなるでしょう。そのためにも、何よりも大切なのは、皆さんが心身ともに健康であることです。どうか体を大切に、時には息抜きをしながら、この素晴らしい日々を過ごしてください。本学は、皆さんが安心して学び、成長できるよう教職員一同、あらゆる面でサポートを惜しみません。困ったことや悩んだことがあれば、いつでも気軽に相談してください。

この学び舎で得られる知識と技術、そして、かけがえのない友人との出会いが、必ず皆さんの人生を豊かに彩り、未来の医療を担う立派な人材へと導いてくれることでしょう。これからの学生生活を、有意義で心から楽しいものにしていただくこと、また、皆さんの未来が明るく、輝かしいものであることを心から願っています。

本日は、ご入学誠にありがとうございます。

大学院学位記授与式

令和8年3月7日（土）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和7年度大学院学位記授与式が挙行されました。【写真】

式では、医学研究科博士課程修了者12名を代表して岩田侑真さん、看護学研究科修士課程修了者8名を代表して五十嵐一希さんの2名に対し、祖父江元学長から学位記が授与されました。

続いて、祖父江学長から告示が述べられ、式は終了しました。



大学院入学式

令和8年4月5日（日）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和8年度大学院入学式が挙行されました。【写真】

式では、医学研究科博士課程23名、看護学研究科修士課程13名、看護学研究科博士後期課程3名の計39名の新入学生を代表して、看護学研究科の木野有美さんから、「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い本学大学院学生としての自覚を持ち、勉学に励むことを誓います」との宣誓が行われました。

続いて、伊藤恭彦学長から式辞が述べられ、式は終了しました。



名誉学長及び名誉教授称号授与式挙行

令和8年3月31日付けをもって退任された祖父江元学長（第12代学長・2期6年）に愛知医科大学名誉学長及び名誉教授の称号が授与されました。また、同日をもって退職された小林孝彰教授（外科学講座(腎移植外科)）、細川好孝教授（生化学講座）、佐野力教授（外科学講座(消化器外科)）、三嶋廣繁教授（臨床感染症学講座）及び妹尾洋教授（法医学講座）の5名に愛知医科大学名誉教授の称号が授与され、令和8年4月13日（月）正午から、大学本館役員会議室1において授与式が行われました。

授与式には、羽生田正行理事長を始め、伊藤恭彦学長、笠井謙次副学長（医学教育担当）、若杉里実副学長（看護学教育担当）、岩船徹雄法人本部長及



出席者による記念撮影

び長谷川洋事務局長が出席し、羽生田理事長から出席者に称号記が授与され、記念撮影が行われました。また、記念撮影後、昼食を交えた懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、授与式は終了しました。

理事長・学長 所信表明

令和8年4月28日（火）午後4時から、大学本館
たちばなホールにおいて、4月1日就任の羽生田正
行理事長及び伊藤恭彦学長による所信表明演説が行
われました。

初めに、羽生田理事長から本学の財務状況について各セグメントの状況と今後の方向性について説明があった後、「人事・給与制度改革」、「組織・ガバナンス改革」、「医師の働き方改革」について具体的な提示がありました。続いて、伊藤学長から「意識改革・無駄とり・効率アップ」をキーワードに、特徴ある大学づくりを目指した教育・研究・人材育成に関する様々な取り組みが示されました。

当日は、約300名の教職員が出席し、岩船徹雄法人本部長の司会の下、所信表明に対して大学の発展への期待が高まるとともに、教職員一人ひとりが思いを共有することで、今後はより一層、一丸となって取り組んでいこうとする機運が高まりました。



羽生田理事長



伊藤学長

6号館（体育館）吊天井等耐震対策他工事実施

文部科学省の施設整備費補助金を活用して令和7年6月に開始した、6号館（体育館アリーナ及び武道場）の吊天井等における耐震対策工事が完了しました。本工事の目的は、地震時に落下被害が大きくなることが予想される、高所にある部材の更新・落下防止・撤去等の対策です。今回の対策工事の中心となった吊天井は、東日本大震災を受け施行された吊天井に関する告示や省庁からの通知の中で、危険性が高いとして対応を求められていました。

具体的な耐震化対策としては、天井仕上材・照明・空調等の吊材を高強度で揺れにくい固定方法に更新することで落下防止を実施しました。過去の震災で落下被害の多かった天井仕上材には、グラスウールボードという軽量で柔らかい素材を選定し、万が一



アリーナ



武道場

落下した場合でも被害を小さく抑えられます。実際に落下試験も実施しており、ひらひらとゆっくり落ちてくることが確認されました。

工事へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

役員・評議員の異動

【理事長】

退任 祖父江 元（令和8年3月31日付）
就任 羽生田正行（任期：令和8年4月1日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）

【評議員】

退任 細川 好孝（令和8年3月31日付）
井上 里恵（令和8年3月31日付）
就任 藤本 保志（任期：令和8年4月1日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）
萬谷 和代（任期：令和8年4月1日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）

令和8年度職員新任式挙行

令和8年4月1日（水）午前9時から、大学本館たちばなホールにおいて、令和8年度職員新任式が挙行されました。

式では羽生田正行業務執行理事（新任式時点、現理事長）から「皆さん一人ひとりの成長が患者さんの安全につながり、そして愛知医科大学の未来につながっていきます。ぜひ胸を張って、本学の仕事を始めていただきたい。『全ては患者さんのために』という言葉をお忘れず、仕事を頑張ってくださいと思います。本日はご入職、誠におめでとうございます」とあいさつがありました。



出席者による記念撮影

なお、今年度の参加者は188名で、看護職員137名、医療職員39名、事務職員10名、技術職員2名です。

訃報

近藤 明美看護師（メディカルセンター看護部外来）御逝去



令和8年3月5日（木）にメディカルセンター看護部外来の近藤明美看護師がご逝去されました。享年55歳でした。

近藤さんは、前病院の開院当初から勤務され、外来診療および手術部門を中心に診療体制を支えてくださいました。愛知医科大学メディカルセンターとして事業承継後も、内視鏡部門においてご活躍されるとともに、採血・採尿センターの業務にも積極的に協力され、外来の

診療運営に貢献されました。勤勉で誠実なお人柄は周囲からの信頼も厚く、患者さん一人ひとりに寄り添う丁寧な対応は多くの方々に安心を与えてくださいました。ご病気と向き合われながらも最後まで職務に真摯に取り組まれたそのお姿は、私たち職員に深い感銘を与え、多くの記憶に深く刻まれています。

これまでのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、ここに謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

主な役職者の改選

○ 大 学

【副学長（医学教育担当）】



笠井 謙次

（病理学講座・教授）

引き続き、副学長（医学教育担当）を拝命致しました。今年度の医学教育分野別評価2巡目受審や入試体制の抜本的改革を無事成し遂げるとともに、何よりも学生、教職員が一体となった活力ある医学校務を展開していく所存です。益々のご支援を宜しくお願いします。

（再任、任期：R8.4.1～R10.3.31）

【副学長（看護学教育担当）】



若杉 里実

（公衆衛生看護学・教授）

引き続き、副学長（看護学教育担当）を拝命致しました。学部教育では、コンピテンシー基盤型教育カリキュラムへの転換に向けた準備を進めていきます。大学院では、修士課程から博士後期課程までの一貫した博士課程教育の確立に取り組んで参ります。宜しくお願い致します。

（再任、任期：R8.4.1～R10.3.31）

【副学長（特命担当）】



佐藤 元彦

（生理学講座・教授）

研究活性化、研究推進・研究不正防止担当副学長（特命担当）を拝命致しました。研究資源を効率よく配置し、研究発展に寄与したいと考えております。皆さまのご意見・ご協力のもと、柔軟性も担保しつつ進めて参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

（再任、任期：R8.4.1～R9.3.31）

【副学長（特命担当）】



伊藤 理

（内科学講座(呼吸器・アレルギー内科)・教授）

副学長（特命担当）を拝命致しました。ダイバーシティ推進、教員評価、ホームページの3部門を担当致します。大学教員として女性が益々活躍できるよう、環境の整備に努めて参る所存です。学生や受験生に本学の魅力を情報として伝えられるよう、皆さまからのご指南を賜りたく、何卒お願い申し上げます。

（再任、任期：R8.4.1～R9.3.31）

【副学長（特命担当）】



内藤 宗和

（解剖学講座・教授）

このたび、副学長（特命担当）を拝命致しました。意識改革・無駄とり・効率アッププロジェクト、AMU Visionary Leaders Programの推進に努めて参ります。身の引き締まる思いで精一杯取り組んで参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（新任、任期：R8.5.1～R9.3.31）

【教 務 部 長】



鈴木 耕次郎

（放射線医学講座・教授）

引き続き、教務部長を拝命しました。カリキュラム改善を継続的に行い、医師国家試験合格率の高水準維持と留年生の減少に向けて務めて参ります。また、授業と実習をより充実させ、患者さんに寄り添える医師を育成する方針です。

（再任、任期：R8.4.1～R10.3.31）

【学 生 部 長】



宮本 淳

(心理学・教授)

引き続き、学生部長を拝命致しました。今年度から学生も学生生活委員会の構成員として参画致します。学生の意見を尊重し、一人ひとりが主体的に充実した学生生活を送れるよう、支援の充実に努めて参ります。何卒宜しくお願い申し上げます。

(再任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

【総合学術情報センター長】



高村 祥子

(感染・免疫学講座・教授)

このたび、総合学術情報センター長を拝命致しました。本センターは、図書館部門、ICT支援部門、情報基盤部門から成ります。図書館部門のサービス充実や、ICT支援システム及び情報基盤の充実を図り、学生教育への貢献や教職員の業務向上に取り組んで参ります。

(新任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

【研究創出支援センター長】



笠井 謙次

(病理学講座・教授)

昨年度途中のセンター長拝命以来、本学の特徴を生かしたバイオバンクの運営方針やURA機能について学内諸部門と協議を重ねてきました。これらを踏まえ、学内研究支援のハブとして、また学外との研究情報の窓口として、センターを再活性化する所存です。

(新任、任期：R7.7.1～R9.3.31)

【災害医療研究センター長】



津田 雅庸

(災害医療研究センター・教授)

引き続き、災害医療研究センター長を拝命致しました。本センターは災害医療における研究だけでなく、行政や自治体とともに多くの研修や

訓練も行っております。本院は基幹災害拠点病院に指定されており、病院・大学の発展に貢献できるよう取り組んで参ります。

(再任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

【アドミッションセンター長】



仙石 昌也

(アドミッションセンター・教授)

引き続き、アドミッションセンター長を拝命致しました。令和9年度入学者選抜から両学部的一般選抜日程が1月から2月へ移行することとなり、選抜実施に当たっては大幅な変更を伴います。皆さまのご協力のもと、円滑な実施に向けて努めて参ります。

(再任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

【保健管理センター長】



鈴木 孝太

(衛生学講座・教授)

引き続き、保健管理センター長を拝命致しました。学生、そして教職員の皆さんが、毎日を健康に過ごすことができるようサポートして参ります。体調不良時の休養や健康相談など、いつでも気軽にD棟6階のセンターをご利用ください。

(再任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

【加齢医科学研究所長】



岩崎 靖

(加齢医科学研究所・神経病理研究部門・教授)

引き続き、加齢医科学研究所長を拝命致しました。世界有数のブレインリソースセンターを擁し、神経疾患の病態解明に向けた神経病理学的研究及びiPS細胞由来神経系細胞を用いた研究を推進する本研究所は、今後も神経科学の発展、人材育成に貢献して参ります。

(再任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

【分子医科学研究所長】



笠井 謙次

(病理学講座・教授)

このたび、分子医科学研究所長を拝命致しました。伝統ある本研究所がこれまで見出してきた細胞外マトリックスに関する輝かしい基礎的知見を踏まえ、特に今後は学内外との同研究を通じて臨床的展開を強化していく所存です。益々のご支援を宜しくお願いします。

(新任、任期：R8.4.1～R9.3.31)

【総合医学研究機構長】



佐藤 元彦

(生理学講座・教授)

引き続き、総合医学研究機構長を拝命致しました。高度研究機器部門、動物実験部門、核医学実験部門からなる総合医学研究機構は、本学研究活動の中核として機能してきました。今後も研究資源の効率的な運用を通して、研究活動の発展に貢献して参りたいと思います。

(再任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

○ 医学部

【眼科クリニックMiRAIクリニック長】



三木 篤也

(近視進行抑制寄附講座・教授(特任))

引き続き、眼科クリニックMiRAIクリニック長を拝命しました。令和4年7月にメディカルクリニックを引き継いで開院してから今年で4年になりますが、皆さまのご支援のおかげをもちまして、月間受診者数1,000名、月間手術数100件を毎月達成できるレベルまでクリニックを発展させることができました。今後も眼科外来手術、産学共同研究の拠点として益々発展できるよう努めます。引き続きご支援の程、宜しくお願い致します。

(再任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

【IR室長】



笠井 謙次

(病理学講座・教授)

引き続き、IR室長を拝命致しました。教育プログラムの分析評価は勿論、入試制度、研究活動、組織運営など大学活動の全ての局面で客観的データに基づく方針策定が必要です。IR室ではこれらデータの収集分析を通じて大学の更なる発展に貢献する所存です。

(再任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

○ 看護学部

【ヘルスケア共創センター長】



山中 真

(看護管理学・教授)

このたび、ヘルスケア共創センター長を拝命致しました。本センターは昨年度に設置された新たな組織であり、これまで培ってきた地域との連携を基盤に、大学・大学院及び医療機関へと活動の場を広げて参ります。今後は、臨床及び地域のニーズに的確に応え、更なる発展に寄与できるよう努めて参ります。

(新任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

【薬毒物分析センター長】



福田 真未子

(法医学講座・教授)

このたび、薬毒物分析センター長を拝命致しました。これまでの体制を維持しつつ、高精度な分析体制の発展に邁進して参ります。併せて、高度救命救急センターとも緊密に連携を図り、円滑に対応できるよう尽力致します。

(新任、任期：R8.4.1～R10.3.31)

時習館高等学校と高大連携に関わる協定締結

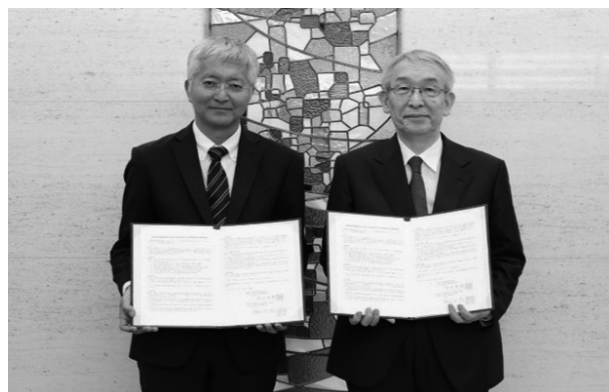
令和8年3月26日（木）午後2時30分から、大学本館役員会議室1において、愛知県立時習館高等学校との高大連携に関する協定締結式が行われ、祖父江元 学長と時習館高等学校の寺田安孝校長が協定書に署名しました。

本学医学部は、全国の私立医科大学に先駆けて国際バカロレア選抜を導入し、これまで3名の卒業生を輩出しています。

時習館高等学校は、令和8年4月に附属中学校を開校し、中高一貫教育を開始しており、探究型学習と国際的な教育プログラムの導入を予定しています。

こうした特色ある学生の受け入れやグローバル人材の育成など魅力ある活動を推進する本学と時習館高等学校の方針には重なる部分が多々あったことが今回の連携の契機になりました。

今回の高大連携協定は、時習館高等学校の生徒が自らの人生を切り拓くために必要な資質と能力を育む教育を推進するとともに、医療分野に貢献する人



左から寺田校長、祖父江学長

材の育成に必要な事業の実施に向け、相互に連携・協力することで、健康かつ持続可能な地域社会の形成と発展に寄与することを目的としています。

本学はその目的を果たすべく、今後、高校生が医療や研究の現場を体験する機会を積極的に提供し、リアルな医療・医学を学ぶことができるプログラムの構築を目指します。

大学運営審議会～新メンバーでスタート～

学長及び副学長を中心に大学の重要事項及び将来構想等を審議する組織として、平成28年4月1日付けにて設置された「大学運営審議会」は、年間15回程度開催【写真】されており、学長のガバナンスの下、教学に関する全学的な内部質保証推進組織となっています。

各種規則の制定・改廃に係る審議のほか、副学長から学部・病院の動向や課題等について随時報告がなされ、全学的なPDCAサイクルを確立し、両学部・両研究科との情報共有が図られています。

今年度から伊藤恭彦新学長の就任に伴い、副学長（特命担当）として新たに3名の指名がありました。今年度は、医学部の医学教育分野別評価の受審に加え、大学評価の申請年度となり、構成員各人が多忙の中ではありますが、様々な課題への迅速な対応を重視し、開催して参ります。



<構成員>

学 長	伊藤 恭彦
副学長（医学教育担当）	笠井 謙次
副学長（看護学教育担当）	若杉 里実
副学長（診療担当）	天野 哲也
副学長（特命担当）	佐藤 元彦
副学長（特命担当）	伊藤 理
副学長（特命担当）	内藤 宗和
事務局長	長谷川 洋

名古屋市教育委員会及び東海がん専門医療人材養成プラン共催 『市民大学公開講演会』開催

令和8年2月7日(土)午後1時30分から、イーブルなごやホールにおいて、名古屋市教育委員会及び東海がん専門医療人材養成プランの共催で市民大学公開講演会が開催されました。

「愛知医科大学における最先端研究・医療」をテーマに2部構成で行われ、第1部は、臨床腫瘍センター腫瘍内科部門の久保昭仁教授が、「がんゲノム医療－最新の治療につなげるために－」と題し、がんゲノム医療とはどのような医療であるのか、また、検査の詳細な内容などについて講演されました。

続いて、第2部は、腎臓・リウマチ膠原病内科の

伊藤恭彦名誉教授が、「がん診療と腎臓病・オンコネフロロジー～高齢化社会のがん治療において腎臓害が障壁にならないために～」と題し、腎臓病とがんの関係性、がんと腎臓の専門医が連携するチーム医療の一つの形であるオンコネフロロジーなどについて講演されました。

参加者からは「高度な内容だったが、ゲノム医療について初めて知ることができた」、「腎臓を守る暮らしを強く意識できた」などの感想があり、大変盛況な講演会となりました。



久保教授



伊藤名誉教授

令和7年度愛知県災害医療コーディネート研修開催

令和7年9月21日(日)及び令和8年3月1日(日)に、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の日赤愛知災害管理センター棟において、愛知医科大学、愛知県及び愛知県医師会の三者共催による令和7年度愛知県災害医療コーディネート研修が開催されました。

本事業は、愛知県における災害時の医療調整機能の強化を目的として、地域で災害時医療チームの派遣調整や患者の受け入れ・搬送の調整を担う医師等を対象に実施しているものです。必要な知識の習得を図るとともに、県内で共通の認識を共有することを目的に、平成27年度から実施されています。

研修には県内の医師会、保健所、災害拠点病院、看護協会から、医師のみならず、コメディカルや事



机上演習の様子

務職員など、幅広い職種の方々が2日間で117名参加されました。

災害医療研究センターでは、南海トラフ地震や各種災害における犠牲者を軽減するため、今後も災害医療の教育・研究を積極的に進めて参ります。

学内研究ユニット創出支援事業 成果発表会開催

令和8年2月13日（金）午後1時から、大学本館7階会議室等において、学内研究ユニット創出支援事業成果発表会が開催され、各ユニット研究代表者によるプレゼンテーション発表と各ユニット及び学内研究者によるポスター発表が行われました。

研究ユニット創出支援事業は、学内の研究活性化を目的として、分野横断的な「研究ユニット」を組織し、各ユニットで研究を遂行するもので、その研究成果発表の場として、発表会が開催されました。

前回に引き続いて、研究者による発表に加え、医学部2学年次生による基礎医学セミナーの学修成果発表（ポスター発表）が行われました。研究者から学生まで幅広い参加者によって、更に発展した内容の発表会となりました。

発表会当日は、プレゼンテーション発表9課題とポスター発表21課題の研究成果発表が行われ、83名の研究者等が参加しました。発表会を通じて多くの研究者間での活発な意見交換や研究内容に関する質疑応答があり、学生の発表と併せ、大学全体の研究交流会の場として活用され、非常に有意義なものとなりました。



研究代表者によるプレゼンテーション発表の様子



学生によるポスター発表

愛知医科大学SDへの取り組み

本学では「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

令和8年度新規採用事務職員研修実施

令和8年4月1日（水）から3日（金）及び6日（月）に、新規採用事務職員等11名を対象とした事務職員研修が実施されました。研修では、大学、病院及びメディカルセンターの施設見学や、コミュニケーションワークを通じて同期同士の親睦を深めるとともに、業務遂行に必要な電話対応、文書事務及びOAスキル等を習得しました。また、内定期間中からグループで取り組んだ「愛知医科大学及び愛知医科大学病院の特徴」及び「社会人としてのマナー、心構え」の課題について、配属部署の管理職の前で発表が行われました。

研修受講後のアンケートでは、「大学・病院内の様子や、他職種連携が行われている現場を見学できたことが印象的であった」、「実践的な電話対応やビジネスメールの研修を受講したことで、配属時の不



本院施設見学にて

安が軽減した」などの意見が寄せられました。

4月から6月にかけては、毎週金曜日に新規採用事務職員向けの事務組織研修を実施します。各部署の先輩職員を講師として、今後関わる事務組織について、より詳細に学んでいく予定です。

令和8年度ビジネスマナー研修実施

令和8年4月16日（木）及び17日（金）大学本館たちばなホールにおいて、令和8年度新規採用職員を対象とした、看護職員・医療職員・事務職員・技術職員合同のビジネスマナー研修が実施され、182名が参加しました。

研修は両日同内容で開催され、座学だけでなくペアワークを行うことで、より実践的な研修が実現できました。社会人としての基本動作や言葉遣い・敬語など、ビジネスマナーの基本を習得する内容で、ロールプレイングによる実践的な練習や全体での意見共有が行われました。

受講者からは、「患者さんに安心感を与えられるように、一つひとつの行動に意識を向けていきたい」、「社会人としてのルールやマナーを学ぶことができたため、患者さんやそのご家族と関わる時や



ロールプレイングの様子

職員同士と関わる時に活かしていきたいと思います」、「自分の言葉遣いや身なり等が自分だけではなく病院自体の信頼にも関わってくるため、細かい行動にも心がけながら働いていきたい」などの感想がありました。

ICT活用教育に係る講演会開催

令和8年2月16日（月）午後5時から、大学本館5階マルチメディア教室において、総合学術情報センター ICT支援部門主催による、ICT活用教育に係る講演会が開催され、43名の参加がありました。

札幌医科大学医療人育成センター教育開発研究部門の三原弘准教授をお招きし、「生成AI×医療教育：Cyborg・Centaur・DEFT-AIで拓く新しい指導と学習」と題してご講演いただきました。

講演では、近年著しい進化を遂げている生成AIの現状について、実演を交えながら分かりやすくご紹介いただきました。本講演を通じて、大学として教育及び業務に生成AIをどのように導入・活用していくべきか、理解を深めることができました。

今後は、生成AIを適切に活用できるよう、教育及びサポート体制の整備に取り組んで参ります。

令和7年度情報セキュリティ講演会開催

令和8年3月5日（木）午後5時から、大学本館5階マルチメディア教室において、情報セキュリティに関する意識向上・啓発活動の一環として、全教職員及び学生を対象に情報セキュリティ講演会が開催され、40名の参加がありました。

講師には、愛知県警察本部警備部警備総務課サイバー攻撃対策隊の方々をお迎えし、「サイバー攻撃の現状と対策」と題して、最新の情報セキュリティ動向について事例を交えながらご講演いただきました。ランサムウェアの脅威、主なサイバー攻撃事例

及び詐欺メールを見分けるポイント等についてご説明いただいたほか、講演の最後にはウイルスに感染した情報機器のデモンストレーションも行われ、出席者は身近な脅威と情報セキュリティの重要性について理解を深めました。

本学では、引き続き情報基盤の整備を進めるとともに、情報漏洩防止に向けて教職員及び学生の意識向上・啓発活動に努め、情報セキュリティ対策に一層取り組んで参ります。

—退職を迎えて— “長年の勤務お疲れ様でした”

長年にわたり本学に勤務され、本年3月31日をもって定年退職又は期間満了退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

なお、定年退職後も再雇用等により本学にご尽力いただける方もみえますので、引き続きのご活躍をご期待致します。



小林 孝彰 先生
(外科学講座(腎移植外科)・
教授)

11年間の御礼と移植医療の発展

平成27年4月に臓器移植外科学寄附講座を前身として、外科学講座(腎移植外科)が発足し、11年間担当させていただきました。多くの皆さまのご協力を得て、無事、担当の期間を終えることができましたことを、心より御礼申し上げます。移植に不可欠な免疫検査、ウイルス検査を導入し、最先端の医療を提供する体制を整備することができました。移植成績は5年生着率96.1%と、高齢者が多いにも関わ

らず全国平均を上回っております。移植前のHLAからT/B細胞エピトープをIn silico解析することで、個別化医療(免疫抑制療法の適正化)も可能になりつつあります。移植医療が更に発展していくことを期待しております。また、この期間の大学院生は15名、学位取得は11名、海外留学は4名であり、科学研究費は代表者として6件、分担者として16件獲得しました。少人数講座でありながら、満足できる結果となりました。クリクラA、Bにおいて、本講座を選択していただいた学生には、印象に残る実習を経験していただいたことと思います。学生の皆さん、国試はゴールではなくスタート地点です。本学の発展のために、そして後輩のために、大きく羽ばたいてください。



細川 好孝 先生
(生化学講座・教授)

今日一日が幸せと思えるように

平成18年4月に愛知医科大学に着任して以来、生化学講座の運営に加えて、教務関連の責任者の一人として、本学における医学教育の変遷を間近で見参りました。その中で、喫緊の課題は、学生諸君の進級率の向上と国家試験合格率の維持をいかにして共存させていくかにあると考えています。医師国家試験の合格率は一時的な緊急対応で改善されますが、進級率の改善は数年の年月を要し、先送りを続

ける放射性廃棄物処理問題に似ています。

退職を迎えるに当たり、本学で最終講義をさせていただけたことは、これまで歩んできた道のりの振り返りと自己反省のためのよい機会となりました。最終講義でのメッセージである「人生は自分の努力だけでは抗えない不条理さを多く含んでいます。過去を悔いることなく、未来への希望を持ち、今日一日が幸せであると思えるように」を、皆さまへ送らせていただきたいと存じます。私としましては、退職後も医学の発展にささやかでも貢献できるようにチャレンジしていきたいと考えております。

愛知医科大学の益々のご発展と、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



佐野 力 先生
(外科学講座(消化器外科)・
教授)

退任のご挨拶

平成25年から愛知医科大学外科学講座（消化器外科）教授として診療・教育・研究に携わって参りました。本院は大学病院でありながら地域医療の中核を担い、良性疾患から高度肝胆膵外科手術まで対応しております。着任当初約800件であった年間手術件数は現在1,500件を超え、鏡視下手術やロボット支援下手術を導入し、膵頭十二指腸切除にも取り組む体制を整えました。また、手術室運営の効率化と

チーム医療体制の充実を図り、安全で働きやすい環境づくりを進めてきました。学生教育にも力を注ぎ、臨床実習を通じ外科医療の魅力と使命を伝えました。

消化器外科を取り巻く環境は変化しておりますが、医療は進歩を続けます。新しい技術と柔軟な発想を持つ若い世代が加わることで、外科医療は更に発展すると確信しています。これから医師を志す諸君が志高く歩み、本学から多くの優れた外科医が育つことを願っています。

これまで支えてくださった同窓の先生方、教職員、関係各位に深く感謝申し上げます、本学の発展を祈念致します。



三鴨 廣繁 先生
(臨床感染症学講座・教授)

退職を迎えて～学びて厭わず、人を誨えて倦まず～

19年8か月にわたり愛知医科大学病院に勤務し、このたび退職の日を迎えました。臨床感染症は、診療の最前線で患者さんに向き合うと同時に、医療関連感染対策という「病院全体の安全」を支える責務を担ってきました。感染制御は、特定の誰かの仕事ではなく、多職種が同じ目標を共有し、現場で実装

して初めて成果に結びつきます。現場で議論を重ね、手順を磨き、危機のたびに組織として学び直してきた日々は、私にとって何よりの財産でした。

また、教育の場では、若い医師や看護師、検査技師・薬剤師・事務職員を含む多くの仲間と、感染症診療の基本と考え方を共有し、次世代が自ら判断し動ける力を育むことを心がけてきました。「学びて厭わず、人を誨えて倦まず」を胸に、学び続け、伝え続ける姿勢こそが本学で託された使命であったと感じています。ここで得たご縁に深く感謝し、皆さまのご健勝と愛知医科大学の更なる発展を祈念致しております。



妹尾 洋 先生
(法医学講座・教授)

25年の感謝を胸に

平成12年5月に法医学講座教授として着任した当時は、全国で毒物中毒事件が相次ぎ、化学物質中毒への検査体制の強化が求められていました。本学でも分析装置が導入され、平成13年には薬毒物分析センターが設立され、センター長を拝命致しました。

また、入試問題作成・採点、面接官としても入試業務に携わって参りました。

法医解剖件数も着任当初より増加し、年間約100件の法医鑑定を担い、その収益は本学への貢献となるとともに、研究室の質の高い研究の発展の基盤となりました。

振り返れば、本学での25年間は、多くの皆さまに支えていただき歩むことができました。個々のお名前はページの都合上割愛致しますが、これまで賜りましたご厚情に心より御礼申し上げます。末筆ながら、本学の更なる発展をお祈り申し上げます。



伊佐次 厚司 さん
(歯科口腔外科・主任)

多くの方々に支えていただき、無事定年を迎えることができましたこと、心より感謝しております。今後も皆さまと愛知医科大学の発展をお祈り申し上げます。



井上 里恵 さん
(看護部事務室・部長)

新人看護師として愛知医科大学に入職しました。定年まで勤めるとは思ってもいませんでしたが、素晴らしい仲間、多職種の皆さまに支えられた看護人生でした。今後益々の本学の発展をお祈りします。



岡本 悦子 さん
(看護部事務室・副部長)

多くの方々に支えていただき、無事定年を迎えることができましたこと、大変感謝しております。今後も大学、皆さまの発展をお祈り申し上げます。



小林 千尋 さん
(医療安全管理室・副室長)

たくさんの方と一緒に働き、喜怒哀楽を共にした方々との出会いは私の宝物です。いろいろな思いの詰まった40年間、皆さまの支えがあり無事に定年を迎えることができ、感謝しています。今後の皆さまのご活躍と愛知医科大学の益々の発展をお祈り致します。



坂本(犬飼) 洋子 さん
(生理学講座・講師)

28年間、学生教育と基礎医学研究に携わりました。研究は神経内科医時代の発汗障害学から発汗生理学へ広げることができ、ご指導ありがとうございました。皆さまと本学の更なる発展を祈念致します。



伴 信太郎 さん
(メディカルセンター・
特命教育教授)

平成29年に入職し9年が経過しました。この間教育部門の構築に頑張ってきたつもりです。教育は人の潜在能力を引き出す営みです。本学が良医を育成する学府として発展することを祈念します。

※ 教授を除き、五十音順・希望者のみ掲載

定年退職教授最終講義

令和8年3月で定年を迎えられた5名の教授の最終講義が大学本館たちばなホールにおいて行われました。長年にわたり、本学の発展に多大なる貢献をしていただき、また、本学の医学教育に対しご尽力くださいました先生方の最終講義には、学内外から多数の方が聴講に訪れました。ここに、先生方の最終講義の様子についてご紹介致します。

外科学講座（腎移植外科）

小林 孝 彰 教授 1月27日（火）

【移植医療に関わった35年を振り返って…】

小林教授は、平成27年4月に本学にご着任以来、医学部学生に対する講義・実習、大学院での研究者の育成など、大変な熱意を持って教育・研究指導に当たってられました。

最終講義では、慢性腎臓病及び移植医療における地域の基幹病院としての役割を担い、安心・安全で質の高い医療を提供するため、長年にわたり腎移植の普及・発展に努められたことを詳しくご説明いただきました。

研究面では、ブタの遺伝子組換えによる異種移植研究に取り組み、海外留学、多数の国際異種移植学会でのご経験を活かし、ABO血液型不適合移植やドナー特異的HLA抗体陽性移植における移植前管理、そして、移植後の効果的な免疫抑制療法の確立に貢献されるなど、ドナー不足、長期成績の更なる改善という移植医療の課題に集中的に取り組まれてきたことをお話いただきました。



更に教育面では、日本の将来を担い、世界に羽ばたくことができる人材の発掘、育成を基本方針とし、11年間にわたり本学医学部学生、大学院研究生の教育や学位取得指導に尽力されてきたことについても言及されました。

講義の最後には、次世代へのメッセージとして、「人生の大事なことの80%は（35歳ではなく）45歳までに起きる」、「一か所に留まることなく、多くの経験をし、多くの人に出会い、生き方（生き様）を学んでください」そして、「機会があれば海外に飛び出してください」と述べられ、講義を締めくくられました。

法医学講座

妹尾 洋 教授 2月4日（水）

【法医学と車と私】

妹尾教授は、平成12年5月に本学法医学講座教授にご着任以来、医学部学生に対する講義・実習、大学院での研究者の育成など、大変な熱意を持って教育・研究指導に当たってられました。また、年間約80～120件に及ぶ法医鑑定業務を長年担われ、その成果は講座の強固な運営基盤を築くとともに、質



の高い研究活動の源泉となりました。

最終講義では、トヨタ自動車のAE-86、ダッジのバイパーを始めとする数々の愛車のエピソードを交えながら、大学院時代に検案セットを車に積み、昼夜を問わず死体検案を行い、法医解剖にも取り組まれていたご経験について語られました。

また、研究面では、固相抽出（SPE）、ガスクロマトグラフィー（GC）、ガスクロマトグラフィー質量分析法（GC/MS）などを用いた多様な研究に従事され、ドイツ留学中には、GC/MSや薄層クロマトグラフィー（TLC）による薬毒物分析に積極的

に取り組まれるなど、永年にわたり、本学高度救命救急センターにも関連する微量薬毒物分析の研究に貢献されたことを述べられました。

更に学内においては、化学の入試問題作成者、採点委員及び面接官として、入試業務にも深く携わり、大学の円滑な運営及び発展に努められてきた実績についても言及されました。

講義の最後には、長年にわたり支えてくださった全ての関係者の皆さまに深く感謝の意を述べられ、講義を締めくくられました。

生化学講座

細川 好孝 教授 2月20日（金）

【ある基礎医学者の65年間の四方山話】

細川教授は、平成18年4月に本学にご着任以来、医学部学生に対する講義・実習、大学院での研究者の育成など、大変な熱意を持って教育・研究指導に当たってこられました。

また、平成19年からは入学試験委員会及び教務委員会に参画され、入学試験委員会幹事長、教務部長、教務部次長を歴任されるなど、本学の入試業務及び教育運営において主導的な役割を果たされました。

最終講義では、名古屋大学大学院生から三重大大学在籍、そしてボストン留学時代を通じ、酵素学・分子生物学分野におけるミトコンドリア電子伝達系酵素の精製、抗体作製、5種類のヒトcDNAクローニング研究に邁進され、JBC誌に論文を発表されたご経験についてお話しいただきました。更に愛知県がんセンター在籍時には、マルトリリンパ腫（MALT）の解析に尽力され、その成果により日本白血病基金・



清水賞を受賞されたことにも触れられました。

講義後半では、本学での研究活動に加え、教務部長在任中に取り組まれた新カリキュラムの導入や医学部教育改革、5学年次からの総合試験導入など、現行の進級・卒業システムの基盤構築に多大な貢献をされた軌跡を振り返られました。

講義の最後には、「人生は個人の努力だけでは抗えない不条理さを含むものですが、過去の失敗を悔いず、未来への希望を持ち、今日一日が幸せであると思えるようにお過ごしください」とのメッセージが贈られ、講義を締めくくられました。

外科学講座（消化器外科）

佐野 力 教授 3月3日（火）

【外科医40年を終えて】

佐野教授は、平成26年3月に本学へご着任以来、医学部学生に対する講義・実習や、大学院における研究者育成など、強い熱意を持って教育・研究指導に取り組んでこられました。

最終講義では、長年にわたり従事されてきた胆道がんなどの難治性疾患に対する外科治療をテーマに、良性胆道疾患の治療体系確立への歩みや肝切除、胆管空腸吻合術、胆道再建術等の豊富な執刀経験から得られた知見についてご解説いただきました。

研究面では、肝門部胆管がんの術後合併症に関する有意因子の解明や、動脈再建症例の報告により、第46回日本胆道学会における会長奨励賞、平成23年の日本胆道学会賞の受賞など、肝胆膵外科領域における先進的な治療体制の確立に寄与されてきた歩みが紹介されました。

臨床感染症学講座

三 鴨 廣 繁 教授 3月4日（水）

【人生はアクシデント】

三鴨教授は、平成19年8月に本院感染制御部の教授としてご着任以来、医学部学生に対する講義・実習、大学院での研究者の育成など、大変な熱意を持って診療・教育・研究指導に当たってこられました。

最終講義では、産婦人科医としての原点や恩師の教えに始まり、長年歩んでこられた研究の軌跡を振り返られました。研究面では、マイクロバイーム・マイクロバイオータ、がんと微生物・嫌気性菌の関係、迅速診断・コンピュータ解析の三本の柱を中心に、ポリコナズール外来患者におけるTDMアルゴリズムの開発やカルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌（CPE）の研究など、高度な専門領域における数々の業績が紹介されました。

また、新型コロナウイルス感染症パンデミックに際しては、陰圧個室の整備や、「cobas8800」のいち早い導入により迅速な遺伝子検査体制の確立、全国



また、技術と外科医としての信念の継承を重視され、全国最多となる8名のヘルニア技術認定医を輩出するなど、若手医師の育成にも大きく貢献されました。

講義の最後には、若手世代に向けて「手術は絵画と同じであり、デッサンという基礎が重要であるように、手術においても基礎技術を習得し、経験を重ねて自らの型を確立してほしい」との強いメッセージが述べられ、講義は締めくくられました。



のモデルとなった「愛知医大方式」の構築に尽力されたことについてもご説明いただきました。

更に学外でも、内閣府のガイドライン作成や東京オリンピックでのResults Advisory Expert Group 参画など、国を挙げた対策において中枢的な役割を果たされたご経験にも言及されました。

講義の最後には、長年にわたり支えてこられた関係者へ深い感謝とともに、本学及び附属病院の更なる発展を祈念する言葉で、講義を締めくくられました。

教授就任インタビュー



法医学講座・教授

ふくた まみこ
福田 真未子

— 教授就任に当たっての抱負を聞かせてください。—

令和8年4月1日付で法医学講座の教授を拝命致しました。どうぞよろしくお願い致します。

法医学の研究分野は主に病理学、中毒学、遺伝学に大別され、これまで本学の法医学講座では中毒学を主とした研究がなされてきました。一方、私は遺伝学の畑からやって参りましたので、中毒学について勉強させていただくとともに、遺伝学も教室員とともに盛り上げていきたいと考えています。

実務においては、法医解剖業務はもちろんのこと、社会貢献を積極的に行いたいと考えております。現在行っている戦没者遺骨DNA鑑定事業、愛知県の児童虐待相談対応等について、引き続き尽力していく所存です。

教育分野では、まだ少数派の女性教授として、学生の皆さんが気軽に相談できる教員になりたいと思っています。明確な結論が出ないこともあるかとは思いますが、一緒に考えていきたいと思っていますので、微力ながらお役に立てれば幸いです。

— 現在の研究分野に進まれたきっかけを教えてください。—

金沢生まれであることから、よく尾頭付きの魚が

食卓に上がっており、食べながら骨を観察して、生物や解剖に興味を持ちました。法医学に興味をもつきっかけは、中学生くらいのときに再放送で観た「きらきらひかる」というドラマでした。研修医までは臨床に進むことも候補のうちでしたが、対象が多岐にわたること、じっくり考察できること等が自分に合っており、最終的に法医学を選びました。大学院では指導教授であった青木康博先生の影響でプログラミング言語が好きになりました。現在では、プログラミングがもはや手段ではなくモチベーションになっていますが、法医学分野は幅広いので、何でも研究対象にできるところも魅力だと感じています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

医学の勉強だけではなく、ニュース等を見て多方面の知識を身につけてほしいと思います。医師になったら様々な社会的背景の方と接することになりますから、是非見識を広げてください。法医学の講義では、事例を通して様々な社会の問題を知ってもらえるようにしたいと思っています。

オフショット



フェザーミュージアムで

分子疫学・疾病制御学寄附講座の設置期間終了

平成29年4月1日に、本邦における疾病、特に*Clostridium difficile*感染症等の消化管感染症又は細菌性陰症における常在細菌叢のメタゲノム解析及び比較ゲノム解析を中心とした分子疫学調査の実施と、その成果から得られるdysbiosis（細菌叢の破綻）の改善を目的とした新たな疾病制御法の開発を目的として医学部に設置された分子疫学・疾病制御学寄附講座は、9年の設置期間を経て令和8年3月31日をもって講座終了となりました。講座終了に当たり、講座責任者の萩原真生准教授からごあいさつがありました。

分子疫学・疾病制御学寄附講座・准教授 萩原 真生

本講座では、細菌感染症だけでなく、ウイルス感染症のほか、がんにも研究対象を広げ、生体に形成される細菌叢の制御による新規治療法の開発研究を進める中で、基礎研究を皮切りに多施設共同臨床研究を推進してきました。

これまでに、細菌叢解析を始めとするマルチオミクス解析による成果から新規治療法を創出し、学術論文の発表だけでなく複数の特許も取得しています。

また、このような取り組みは、「生体に形成される細菌叢の特性を考慮した個別化治療の応用」を推進し、より個別化された最適な先進的治療法の実現に繋がることが期待されます。

最後に、設立・運営に当たり本学関係者の皆さま及び企業さまのご支援に心より御礼を申し上げますとともに、愛知医科大学の更なる発展を祈念致します。

外科周術期管理学寄附講座設置

本学では、教育・研究の進展及び充実に資することを目的とし、企業又は個人等からの寄附金を受け入れ、これを有効に活用して「寄附講座」を設置し、教育研究活動を行っております。

この度、令和8年4月1日付けで医学部に新たな寄附講座を新設しました。新設講座である「外科周術期管理学寄附講座（英文名：Department of Perioperative Medicine）」の概要は次のとおりです。

1 設置目的

本講座では高度侵襲外科手術の周術期管理において、術前に「筋肉」と「腸」を鍛えることの重要性について探索的研究を行います。筋肉を鍛えることの重要性に関しては、術前運動・栄養療法（プレハビリテーション）を行うことの重要性について前向き臨床研究を行います。

また、腸を鍛えることの重要性に関しては、シンバイオティクス（プロバイオティクス＋プレバイオティクス）の腸内環境改善効果が、術後感染性合併症発生に及ぼす影響をランダム化比較試験で検討します。

更に、消化器がん手術症例において、周術期シン

バイオティクス投与ががん手術後の長期予後（生存）に及ぼす影響についても検討していきます。

2 設置期間

令和8年4月1日から令和10年3月31日まで（2年間）

3 職員等

教授 横山 幸浩

4 寄附者名

株式会社ヤクルト本社中央研究所

令和7年度医学部FD開催

令和8年3月31日（火）午後5時30分から大学本館711特別講義室において、「令和8年度総合試験（4～6学年次向け）問題作成講習会」として令和7年度第8回医学部FDが開催され、71名の参加がありました。【写真】

当日は、医学教育センターの早稲田勝久教授から、各学年における総合試験の本学における位置づけと、その結果について概説がありました。次に、国家試験出題基準を基に、近年の医師国家試験の動向について実際に出題された試験問題を例示しながら解説がありました。その後、小児科学講座の奥村彰久教授から、作問やブラッシュアップの注意点についての概説があり、肯定形のA typeが最も良問になりやすく、否定形や肯定形のX2/X3の作問は、難易度が高いといったお話がありました。講義に引き続き、



実際の問題を用いて、どの点に改善点があるか、また、どのように改善するのが良いのかということについて、グループ毎に討議が行われました。

総合試験は、本学における卒業試験に相当する極めて重要な試験です。質の高い問題作成に向け、今後ともご協力の程よろしくお願い致します。

令和7年度実験動物慰霊祭挙行

令和7年度医学部実験動物慰霊祭が、令和8年3月4日（水）午後1時から実験動物供養塔前において厳かに執り行われ、医学の教育・研究の発展のための礎となった諸動物の冥福を祈りました。

慰霊祭では、初めに本学の医学研究のために貢献した動物の諸霊に対し、参加者全員で黙祷が捧げられました。続いて、笠井謙次医学部長から、瞑目した諸動物に対し、その尊い献身に感謝するとともに慰霊の辞として、医学研究の発展のため尊い犠牲となった動物たちの霊に哀悼の意が表され、今後とも動物愛護の精神に基づき、更に実験動物の愛護に努めることを誓いました。

その後、祖父江元 学長、笠井医学部長、佐藤元



哀悼の意を表する笠井医学部長

彦総合医学研究機構長、松下夏樹動物実験部門長に続いて、日頃動物実験や飼育に携わっている教職員や学生一人ひとりから白いカーネーションの花が献花台に捧げられ、諸動物の冥福を祈りました。

新入生ガイダンス等の実施

令和8年度入学生を対象としたガイダンス等が、医学部・看護学部ともに4月5日（日）から10日（金）にかけて実施されました。

◆ 入学式後の説明会

4月5日（日）
医学部長メッセージ
事務連絡等

◆ 入学式後の説明会

4月5日（日）
看護学部長メッセージ
教員紹介・事務連絡等

◆ 医学部ガイダンス概要

4月6日（月）
学生生活について
合理的配慮について
学生相談室の紹介
医学部のカリキュラムについて
・6年間のカリキュラムについて
・1学年次のカリキュラムについて
・履修上の注意及び試験に関する注意
・単位認定・進級留年及び成績評価（GPA制度）
授業、試験等について
基礎科学ガイダンス
学長メッセージ
実習衣採寸・注文

◆ 看護学部ガイダンス概要

4月6日（月）
教務関係オリエンテーションⅠ～Ⅳ
総合学術情報センター（情報基盤部門）利用講習会
学務情報システム説明・Web掲示板説明

4月7日（火）
健康診断・実習衣採寸
学生相談室紹介
同窓会紹介
総合補償制度Willに係る説明
国際交流会紹介
愛Kind・キャリアに係る説明
事務手続き案内、ロッカー案内

4月7日（火）・8日（水）
新入生研修

4月8日（水）
学校生活関係オリエンテーション
メールシステム利用説明
防災関係ガイダンス
施設紹介（運動療育センター、愛知医大サービス、図書館）
講義関係案内
教科書販売

4月9日（木）
同窓会について
学生生活ガイダンス
情報基盤部門について
ICTに関するガイダンス
課外活動紹介

4月9日（木）
健康管理ガイダンス
新入生研修・課外活動紹介

4月10日（金）
防災関係ガイダンス
施設紹介
医学部学生総合補償制度のご案内
キャンパスハラスメント防止講演会、防犯講習会、サイバーセキュリティ講演会

4月10日（金）
講義関係案内（ICT関連）
キャンパスハラスメント防止講演会、防犯講習会、サイバーセキュリティ講演会

令和8年度医学部新入生研修実施

令和8年4月7日(火)・8日(水) シミュレーションセンターにおいて、令和8年度医学部入学生を対象とした新入生研修が実施されました。

1日目、まずは医学教育センターの早稲田勝久教授から、本学カリキュラムの紹介、医学教育センターの紹介がありました。次に、自己紹介を兼ねたグループ作りが行われました。その後、基礎科学・基礎医学の先生方にご協力いただき、教員と自由に話すことができるセッションが設けられました。学生は、教員から直々に勉強の仕方、大学生活の過ごし方など、様々なテーマについて話をすることができました。

午後からは、外国語の平田亜紀准教授による自己紹介を通したコミュニケーション演習が行われた後、「あなたはなぜ医師を目指すのか」についてグループワークが実施され、学生は作業を通して徐々に打ち解け合い、活発に議論する姿がみられました。

2日目は、先輩医師からのメッセージとして、脳神経外科学講座の横田麻央助教から、自身の学生生活を振り返りながら新入生に対する激励と温かいメッセージをいただきました。次に、感染・免疫学講座の高村祥子教授から、「基礎医学の学び方」と題し、キャリア紹介、基礎医学の面白さなどを講演していただきました。また、上級生を案内役としたオリエンテーリングを実施し、グループに分かれ学内に設置されたクイズに回答することで大学のことを知る機会となりました。

午後からは、新入生研修の締めくくりとして、



研修を受講する新入生



教員とのグループディスカッションの様子

KJ法を用いて「どのような6年間にしたいのか」を各グループで議論し、漢字一文字で表してもらいました。学生からは「憶・真・覚・熱・恕・満・志・気・楽・変・叶・夢・積・鑿・探・還」という一文字が発表され、この想いを忘れずに6年間で過ごして欲しいと願っています。

本研修終了後のアンケートでは、「同級生や上級生と交流する機会が得られて良かった」、「大学について知ることができた」、「医学生としての自覚を持つ機会になった」など好印象なものが多く、プログラムにご協力いただいた教職員の皆さまに感謝致します。

令和8年度看護学部新入生研修実施

令和8年4月9日（木）午前10時40分からC棟C201講義室において、「社会に求められる看護専門職者に向けて、はじめの1歩を踏み出そう」をテーマに、令和8年度看護学部新入生研修が実施されました。本研修は、新入生が上級生との交流を通して、専門職者としての振る舞い及びマナーを知り、大学で主体的に学ぶことへの動機付けができるようになることを目的としています。

午前の部では、株式会社マイナビから講師をお招きし、「大学生として身につける接遇・マナー」についての講演が行われ、大学生としてだけではなく、看護学生として身につけておくべき接遇・マナーを学びました。

午後の部では、少人数グループで学内施設を見学する「キャンパスツアーオリエンテーリング」が行われ、学内各所に上級生と「ミニゲーム」をする交流ポイントや本学に関する「愛知医科大学クイズ」を回答するチェックポイントが設けられました。新入生は初め緊張していましたが、時間が経つにつれ笑い声も聞かれ、親睦を深めることができているようでした。



キャンパスツアーオリエンテーリング
交流ポイントでの様子

また、「先輩との交流会」と題して、上級生と新入生の座談会が行われました。新入生からは、大学生活を始めとする多くの質問が寄せられ、上級生が体験談を交えて回答する場面もありました。新入生は、大学生活に関する不安が解消でき、充実した時間が過ごせました。

最後に、本研修を振り返り、新入生研修を通じて学んだこと、感じたことを個人レポートとしてまとめました。本研修は、これからの学生生活を送る上で、非常に有意義な一日になったことと思います。

交通安全講習会開催

令和8年4月13日（月）午後6時から大学本館たちばなホールにおいて、医学部生及び看護学部生を対象として交通安全講習会が開催され、両学部合わせて221名の参加がありました。

講師にお招きした愛知警察署交通課交通総務係の伊藤様から、「交通事故に遭わない、起こさない、悲惨な当事者にならないことが第一です」とお話がありました。

初めに、愛知県の交通情勢及び自動車運転時に遵守すべきルールについての説明があり、令和8年4月の道路交通法改正に伴う、自転車の交通違反に対する交通反則通告制度について解説がありました。また、令和8年9月に改正予定である生活道路における自動車の法定速度が引き下げられることについても言及がありました。そして、本学周辺には狭い道路が多いことから、より一層注意して運転することの重要性が強調されました。



交通安全講習会の様子

最後に、「自転車安全利用五則」に関するDVDの視聴が行われ、自転車の安全な利用方法について改めて確認しました。講習会終了後には、交通安全に対する確認Webテストが実施されました。

今後も学生一人ひとりが安全運転への意識を高めることができるよう、啓発活動を続けて参ります。

キャンパスハラスメント防止講演会・防犯講習会及びサイバーセキュリティ講演会開催

令和8年4月10日（金）大学本館たちばなホールにおいて、新入生ガイダンス「キャンパスハラスメント防止講演会」、「防犯講習会」及び「サイバーセキュリティ講演会」が開催されました。新入生が安心・安全に学生生活を送ることを目的としており、当日は、医学部及び看護学部の新入生220名が参加しました。

キャンパスハラスメント防止講演会では、本学保健管理センターの鈴木孝太センター長から、大学におけるハラスメントの基本的な定義や具体的な事例を示しながら、トラブルを未然に防ぐためにできることや、ハラスメント発生時の適切な対応方法についての説明がありました。

防犯講習会では、愛知警察署生活安全課及び警備課から講師をお迎えし、防犯に関する講話や宗教団体に関する注意喚起について、テーマごとにご講演いただきました。特に、ニセ警察による詐欺被害や、近年問題となっている闇バイトの危険性について、具体例を交え注意喚起がありました。



キャンパスハラスメント防止講演会の様子

続いて、サイバーセキュリティ講演会では、愛知県警察本部警備部警備総務課サイバー攻撃対策隊から講師をお迎えし、情報セキュリティ上の脅威やサイバー攻撃・犯罪の手口、それらへの対策についての説明があり、学生が日常生活で意識すべきポイントを学びました。

講演後に実施したアンケートでは、多くの学生から「今後の学生生活に役立つ内容だった」との感想がありました。

篤志献体者に文部科学大臣から感謝状贈呈

本学の解剖学教育のために献体いただいた次の方々に対し、文部科学大臣から感謝状が贈呈されました。

なお、感謝状の贈呈は、献体者のご遺族が受領を希望された方です。

池田 玲子 殿	伊藤 志 殿	井丸 健二 殿	岩井 ち 殿	加藤 政子 殿
栗田 かづ子 殿	黒宮 静子 殿	近藤 重善 殿	坂田 房男 殿	清水 和夫 殿
白井 信夫 殿	鈴木 光雄 殿	住田 文子 殿	永井 町子 殿	丸山 ミエ 殿
森田 勝人 殿	山北 ゆかり 殿	山本 四朗 殿	渡邊 豊 殿	

（以上 五十音順）

令和7年度

医学部・医学研究科ベストティーチャー賞表彰

令和7年度のベストティーチャー賞が決定しましたのでご紹介します。

同賞は、平成29年度から導入された制度で、学生が行う各科目の授業評価アンケート結果により、教育方法や教育内容等が高く評価された教員を表彰するものです。

今回は、医学部及び医学研究科から合わせて6名の教員がベストティーチャーに選出されました。

今後も授業改善に向けた取り組みの一環として、評価の高い教員を顕彰し、学生の教育意欲の向上と大学教育の活性化を図ります。

ベストティーチャー賞表彰者は、次のとおりです。

大学院

○医学研究科

- ・渡邊 栄三教授（救急集中治療医学講座）



出席者による記念撮影

学 部

○医学部

- ・内藤 宗和教授（解剖学講座）
- ・高木 秀和准教授（特任）（感染・免疫学講座）
- ・尾川 貴洋教授（リハビリテーション医学講座）
- ・加納 秀記教授（救急診療部）
- ・伊藤 清顕教授（内科学講座(肝胆膵内科)）

医学部長表彰（西医体）

令和7年8月18日（月）から20日（水）にかけて開催された「第77回西日本医科学生総合体育大会」において、陸上競技部門に出場した医学部3学年次生の千葉聡一郎さんが、男子1,500mで見事第3位入賞を果たしました。

鹿児島県で開催された今大会において、千葉さんは日頃の鍛錬の成果を存分に発揮し、表彰台に上る輝かしい成績を取めました。この功績を称え、学業と部活動を高いレベルで両立し、本学の名誉を高めた学生の模範として、令和8年2月17日（火）午後2時から大学本館4階副学長室において、医学部長表彰が行われました。

表彰式では、医学部長から賞状と記念品が手渡され、その健闘を讃え、今後の医学生生活においても更なる飛躍を期待するとの激励の言葉が



表彰後の記念撮影

送られました。

受表彰した千葉さんからは、「医学部長賞という栄誉を賜り、心より御礼申し上げます。前大会の悔しさを糧に日々地道な鍛錬を重ねた結果、本大会の成績を収めることができました。この経験で培った忍耐力と向上心を礎に、将来は患者さん一人ひとりに真摯に向き合う医師として尽力して参ります」との感想がありました。

令和8年度医学部成績優秀者表彰

医学部では、成績が優秀で、出席状況や学修態度等が他の模範となる学生を表彰する成績優秀者顕彰制度を設け、学生の学修意欲向上を図っています。

令和8年4月21日（火）午後6時から、大学本館たちばなホールにおいて、令和7年度の成績が優秀であった医学部2～6学年次生25名を対象に表彰式が行われました。

当日は、伊藤恭彦学長から受賞者一人ひとりに表彰状および記念品が授与されるとともに、日々の努力が実を結んだ成果であることが述べられ、今後は各学年を牽引する存在としての活躍を期待する言葉



表彰式後の記念撮影

が贈られました。

表彰式後の記念撮影では、和やかな雰囲気の中、学生同士や教員と喜びを分かち合う姿が見られました。

避難生活支援リーダー／サポーターモデル研修への参画

内閣府（防災）令和7年度「避難生活支援・防災人材育成エコシステムの構築事業」の一貫である、「避難生活支援リーダー／サポーターモデル研修」が、令和7年9月20日（土）及び21日（日）に愛知県岡崎市において、9月27日（土）及び28日（日）に愛知県西尾市において開催されました。

この研修では、特定非営利活動法人レスキューストックヤード（RSY）及び特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）の栗田暢之代表理事や、RSYの浦野愛常務理事（JVOAD避難生活改善に関する専門委員会委員）らによって、講義とワークショップのマネジメントが行われました。

西尾市の研修では、公衆衛生看護学の二村純子講師がアシスタント講師を、地域・在宅看護学の佐々木裕子教授がアドバイザーとして参加する中、約50名の参加者は、「避難生活支援リーダー／サポーター」の役割、心構え、被災者及び避難所の全体像の理解、対人コミュニケーション、連携協働等を学びました。また、岡崎市の研修では、佐々木教授と臨床実践看護学の黒澤昌洋准教授がアドバイザーを



グループディスカッションを見守る二村講師（左）

務めました。

市民の方々による、熱心なディスカッション、具体的な避難生活における環境改善の検討に対する積極的な姿勢、豊かなアイディア、講師を刺激する多くの質問からは、本学教員も多くを学ばせていただきました。本学参加者を代表して佐々木教授からは、「この研修が意図する皆の力で命を守る災害支援・減災活動が全国で広がることを願い、今回の経験を本学部や地域の減災活動に活かしていきたいと思います」との感想がありました。

看護学部ミニオープンキャンパス開催

令和7年12月24日（水）に第1回、令和8年3月24日（火）に第2回「令和7年度看護学部ミニオープンキャンパス」が開催されました。

本企画は、高校生が看護学部における講義及び演習を体験することにより、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めていただくことを目的として開催しています。

第1回には24名の高校生が参加し、小児看護学による体験授業「こどもは『小さな大人』ではない?? ～大人とは違う、こどものサイン～」及び体験演習「こどもの世界×看護のおしごと～見て、さわって、感じてみよう～」が行われました。

第2回には31名の高校生が参加し、成人看護学による体験授業「患者さんの生命を守る看護師の観察力」及び体験演習「観察の方法を学んで患者さんの



演習を行う高校生たち

変化に気づこう」が行われました。

学食体験や施設見学も行われ、参加した高校生からは、「実際に体験することで、より看護について理解することができた」などの感想が寄せられました。高校生にとって、看護への関心を一層高める充実した機会となりました。

看護学部模擬面接実施

看護学部では、令和8年2月2日（月）、3日（火）、6日（金）の3日間にわたり、就職対策として模擬面接が行われ、3学年次生69名が参加しました。

看護学部の就職支援は、入学時から段階的に行っており、マナー講座、就職支援講座、履歴書の書き方講座を経て、就職試験を目前とした3学年次後学期に模擬面接が行われます。当日は、株式会社マイナビのキャリアサポート担当職員を面接官にお招きし、本番さながらの個人面接が行われました。面接終了後には、面接官からのフィードバックがあり、個々の学生に対して個別指導が行われました。

実施後に行ったアンケートでは、「緊張感のある面接で、本番を大いに想定することができた。フィードバックも丁寧に自分に足りない点、良い点なども理解することができて、良い機会になった」、「良い



模擬面接に挑む学生（右）

点と改善点を教えていただき、不安だった面接に少し自信を付けることができた。今後は自己分析をより深めて、的確に答えられるようになりたい」などの感想がありました。これから就職試験に臨む学生にとって、十分な心構えと対策を講じるための面接練習となりました。

看護学部同窓会マスコットキャラクター名称決定

令和8年3月14日（土）開催の同窓会理事会において、看護学部同窓会マスコットキャラクターの名称が「あいまる」に決定しました。令和7年4月から始まった本企画は、デザイン募集、デザイン投票、名称募集、名称投票を経て、多くの皆さまにご参加いただきながら、約1年をかけて、ついに名称決定まで至りました。

決定のポイントとして、「あいまる」は、丸みのあるキャラクターの印象に加え、愛知医科大学の「愛」及び看護の心を表す「愛」にちなみ考案された名称であり、親しみやすく呼びやすい点が評価されました。

令和7年11月9日（日）から12月26日（金）にかけて実施された名称募集では19件の応募があり、同窓会役員による一次選考を経て選ばれた4案を対象に令和8年2月3日（火）から3月4日（水）にか

けて名称投票が行われ、115件の投票があった中、最多の50票を得て「あいまる」が採用されました。

このマスコットキャラクターは、コ

ミュニケーションを

大切にする、丸くて優しいクマをモチーフとしており、看護学部で育まれた出会いやつながり、癒しと安心感、そして、母校との温かな結びつきを表現しています。今後は、同窓会の広報物やイベント、記念品・グッズ、LINEスタンプ、オープンキャンパス、SNS等で順次活用し、同窓会の「新たな顔」として親しまれる存在となることが期待されます。



あいまる

看護学研究科特定行為研修修了証授与式挙行

令和8年3月7日（土）午前9時から大学本館役員会議室1において、令和7年度看護学研究科特定行為研修修了証授与式が挙行されました。

授与式では、看護学研究科高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース修了者一人ひとりに対し、祖父江元 理事長から修了証書が授与されました。

続いて、祖父江理事長から今後の医療現場での活躍を期待する祝辞が述べられ式は終了しました。

* 高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース修了後は、特定行為研修修了者として厚生労働省に報告します（38行為21区分）。また、一般社団法人日本



授与式後の記念撮影

NP教育大学院協議会が実施する「NP資格認定試験」の受験資格が得られます。

令和7年度大学院統計セミナー開催

医学研究科及び看護学研究科の合同セミナーとして、令和7年度は計8回の統計セミナーが開催されました。

本セミナーは、医学研究科及び看護学研究科学生を中心に、病院職員を含めた全教職員を対象として、臨床研究支援センターの大橋渉准教授によるZoomを用いたオンラインセミナーであり、研究における統計学的分析手法の基礎知識を習得する講義・演習となっています。



開催日及びテーマは、以下のとおりです。

No.	日 時	テーマ
1	4/22 (火) 午後6時～7時	統計学の基礎
2	5/28 (水) 午後6時～7時	臨床研究と統計的検定
3	6/25 (水) 午後6時～7時	医学研究と統計的検定 Part 2
4	8/27 (水) 午後6時～7時	「後ろ向き研究」の方法
5	9/30 (火) 午後6時～7時	回帰と相関
6	10/29 (水) 午後6時～7時	ロジスティック回帰
7	12/3 (水) 午後6時～7時	生存時間 (1)
8	1/28 (水) 午後6時～7時	生存時間解析 (2) 比例ハザードモデル

学術国際交流協定大学への医学部教職員による訪問実施

令和8年3月1日(日)から6日(金)まで、国際交流センターの都築豊徳センター長及び医学部庶務課の鈴木健祐主任が、学術国際交流協定大学であるタイのコンケン大学医学部及びタマサート大学チュラポン国際医学部を訪問しました。また、3月6日(金)から14日(土)まで、医学部学術国際交流委員会の上松東宏委員がアメリカの南イリノイ大学医学部を訪問しました。各大学において、学生交流の状況や今後の交換留学に関する意見交換が行われ、教育面での連携強化について協議されました。

今回の訪問では、各大学の国際交流担当教員と直接面会し、これまでの交流実績を踏まえ、今後の連携について認識を共有しました。また、今後の具体的な学生派遣・受入時期や人数についても意見交換が行われ、実務面における調整の方向性が確認されました。

こうした交流を通じて、相互理解を深め、今後の継続的な交流及び協力関係の更なる発展に向けた基盤を築くことができました。



コンケン大学訪問



タマサート大学訪問



南イリノイ大学訪問

学術国際交流協定大学への医学部学生留学体験記

本学では、学術国際交流協定大学と学生の交流活動を中心に積極的な活動を行っています。そのプログラムの一環として、協定大学の2学年次カリキュラム受講（PBL）コース及び臨床実習選択（Elective）コースへ本学医学部学生を派遣しています。

令和7年度は、合計19名の学生がこれらのコースへ留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記の一部をご紹介します。

2学年次カリキュラム受講（PBL）コース

大学名	期 間	人 数
南イリノイ大学（SIU）	令和8年3月7日（土）～令和8年3月30日（月）	6

臨床実習選択（Elective）コース

大学名	期 間	人 数
南イリノイ大学（SIU）	令和8年1月31日（土）～令和8年3月30日（月）	4
コンケン大学（KKU）	令和8年2月28日（土）～令和8年3月29日（日）	4
タマサート大学（CICM）	令和8年2月21日（土）～令和8年3月22日（日）	2
ルール大学（RUB）	令和8年2月20日（金）～令和8年3月23日（月）	2
ポズナン医科大学（PUMS）	令和8年2月21日（土）～令和8年3月23日（月）	1

南イリノイ大学（SIU） 2学年次カリキュラム受講コース

医学部4学年次生 矢尾 夏大

春休みの3月にイリノイ州にある南イリノイ大学への短期留学の機会をいただきました。現地の学生とともに講義やディスカッションに参加し、多くの経験をしました。その中で、基礎医学と臨床医学の理解不足や医学英語に課題があることに気付きました。

一方で、万国共通の「医学」という存在に大きな感動を覚えました。学ぶ場所や言語が異なっている、医学は世界で通じる学問であることに強い驚きを覚えました。医学と基礎的な語学力を身につけることで、その知識は多くの人に伝わり、世界中の人々の健康に貢献できる可能性があることを実感しました。この感動を言葉で十分に表すことは難しいのですが、私はこの経験から得た感情を決して忘れるこ



矢尾さん（一番右）

とはありません。今後も医学の可能性について実感したことを糧に、学びに一層励んで参ります。

最後に、今回の留学を支えてくださった先生方、職員の皆さま、現地関係者、家族に心より感謝申し上げます。

南イリノイ大学（SIU）臨床実習選択コース

医学部6学年次生 森 泰地

私は2か月間、アメリカの南イリノイ大学（SIU）に留学しました。家庭医療科、内分泌内科、リウマチ膠原病内科を現地で回らせていただきました。医療形態の違い、医療従事者の考え方の違い、仕事に対する考え方、患者層の違い、日本の医療の良し悪しなど多くのことを考えるきっかけになりました。特に、私はジャーナルクラブをdidacticsで発表させていただいたことが印象的です。

元々私は、海外旅行で困らない程度の英語力をつけたい、留学は面白そうという浅い動機で4学年次にPBLコースへ参加しました。ですが、今回の留学

を経て、いつかアメリカの学会で発表したいという新たな目標ができました。これ以外にも多くの価値観が変わり、新しい自分になれたと感じています。



森さん（左）

きっかけは何であれ、ぜひ多くの学生が留学に挑戦することを願っています。

コンケン大学（KKU）臨床実習選択コース

医学部6学年次生 岡田 奏音

タイのコンケン大学シーナカリン病院の産婦人科・救急科で臨床実習を行い、日本とは異なる医療現場を経験しました。

特に印象的だったのは、タイの学生の主体的な姿勢であり、疑問があればすぐに確認し、積極的に医療現場へ飛び込んでいく姿に刺激を受けました。日本での実習では受け身になりがちな自分を振り返り、自ら考えて行動することの大切さを改めて学びました。

英語力に不安はありましたが、タイの学生はとても親切で、伝えようとする姿勢を大切にすることで、徐々に積極的に交流ができるようになりました。

異文化の中で、医学だけでなく多様な価値観にも



岡田さん（前列一番右）

触れ、非常に充実した1か月となりました。この経験を今後の医師としての歩みに活かしていきたいと思っています。

タマサート大学チュラポーン国際医学部（CICM）臨床実習選択コース

医学部6学年次生 鈴木 佳穂

私は、タイのタマサート大学への留学の機会をいただき、消化器内科および病理診断科で実習を行いました。

消化器内科では内視鏡治療や放射線カンファレンスに参加し、病理診断科では日常診療業務や研修医の勉強会に参加しました。医師や学生が英語で活発に議論する姿や、学生が英語で研究発表を行う様子から、日本との違いを実感し、大きな刺激を受けました。更に、CICMの学生の多くが留学を経験していることもあり、様々な国の医療や文化についての話を聞くことができ、大変有意義でした。

異なる国の医師と交流する中で、自身が学んでいる医学を見つめ直す機会にもなり、国際交流の意義を強く感じました。今後も臆することなく、積極的に海外交流に取り組んでいきたいと考えています。



鈴木さん（一番右）

ルール大学（RUB）臨床実習選択コース

医学部6学年次生 山田 英倫子

この度、Ruhr大学Bochumにて小児科および内科の実習を行いました。小児科はUniversitätskinderklinik - Katholisches Klinikum Bochumにて、common diseaseから希少疾患まで幅広い小児医療を学ぶことができました。内科は St. Josef Hospital の総合内科で実習を行いました。

回診では担当医の先生方が英語で丁寧に説明してくださり、語学力と臨床経験を深めることができました。実習の合間には、ドイツの美しい自然や歴史的建造物、豊かな文化に触れる機会にも恵まれ、多角的な学びを得ることができました。また、中東情勢の影響により帰国便に不安が生じた際には、大学が迅速に安全な渡航手段をご手配くださり、深く感謝申し上げます。



山田さん（一番右手前）

今回のドイツ留学の経験は、私の人生において大きな糧となりました。この学びを胸に、今後も研鑽を積み、医学の発展に貢献できるよう精進して参ります。

ポズナン医科大学（PUMS）臨床実習選択コース

医学部6学年次生 大山 賀以

私はポーランドのポズナン医科大学附属病院で1か月間実習をしてきました。

一番驚いたことは、手術現場の圧倒的な効率化です。日本では閉創する際には時間をかけて丁寧に埋没縫合をしますが、ポーランドでは結節縫合をした後、ステープラーを用いた方法で、スピードを最優先する姿勢に最初は戸惑いました。しかし、その背景には、NFZというポーランド独自の医療予算制度や、限られた医療資源を知るうちに、それが一人でも多くの患者さんを救うための最適解だと気付きました。また、日本の医療制度はどうなっているのだろうと自分の国への関心も深くなりました。

異国での発見をきっかけに、当たり前のものとし

て受け入れていた自国に対して客観的に考えるということは、留学で得られる大きな財産だと思います。

海外実習に興味がある後輩の皆さん、ぜひ勇気を持って行ってみたいかがでしょうか。



大山さん（中央）



タイ王国マハサラカム大学短期留学生来学

令和8年3月2日（月）から7日（土）までの日程で、タイ王国マハサラカム大学（MSU）から看護学生4名、大学院生3名、看護学部教員4名の計11名が来学されました。平成30年からスタートしたマハサラカム大学からの留学生の受け入れは、今回で5回目となり、更に充実した交流となりました。

今回のプログラムでは、本院やあいち小児保健医療センター、介助犬訓練施設「シンシアの丘」の見学に加え、学生と教員がそれぞれ分かれて交流プログラムが行われました。学生は、本学ボランティア学生とペアになり、看護部の協力を得てシャドウイングを行い、タイと日本の医療の相違を学び合うことができました。教員は、既にスタートしている1件の国際共同研究の進捗を共有するとともに、専門領域が同じ両校の研究者同士がつながり、共同研究



ウェルカムパーティーでの記念撮影

を進めていくためのディスカッションがなされました。

今回は、8月に本学の学生がマハサラカム大学へ訪問する予定であり、更なる交流の発展が期待されます。

学術国際交流協定大学への看護学部学生留学体験記

看護学部では、シンガポール国立大学ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科と教員・学生の交流を含む包括的な相互交流を行っています。令和8年3月に看護学部学生6名が同大学を訪問しました。短期留学を終えた学生の体験記の一部をご紹介します。

シンガポール国立大学短期留学

看護学部4学年次生 今枝 愛来

私は元々海外に興味があり、国際看護学や災害看護学の海外派遣に関する授業を通して海外の医療に関心を持ち、この短期留学に応募しました。プログラムに参加したことで多くの学びを得ることができ、自身の成長につながったと感じています。

シンガポールは多民族国家であり、グローバルな視点で医療を学ぶ環境が整っていました。最先端の教育環境も整っており、手術室での看護師の役割をシミュレーションするVR体験では実際の現場にいるような臨場感の中で学ぶことができ、とても驚きました。また、施設見学では、利用者の言語や文化に合わせてコミュニケーションを工夫するなど、多文化社会ならではの配慮がみられました。一人ひとりに合わせた対応の重要性を実感し、看護師として大切な姿勢を改めて学びました。

更に、演習では少人数制の中で学生が主体的に質問し、積極的に学ぶ姿勢が印象に残りました。



訪問先の施設にて

プログラム中、シンガポール国立大学の学生がバディとしてサポートをしてくれましたが、交流を通して文化や生活についての理解を深めたことや、国境を越えて友情を築けたことは私にとってかけがえない時間となりました。

この留学を通して、多様な価値観を尊重できる看護師を目指していきたいと強く感じました。

CFでの新ドクターカー導入とお披露目会開催

本院では、クラウドファンディング（CF）で新しい緊急車両「ラピッド・ドクターカー」を導入し、令和8年2月3日（火）から運用を開始しました。消防からの要請を受け、医療スタッフがいち早く現場に駆け付けて初期治療を行います。

本院では令和6年9月から10月にかけて、初めてCFを実施することで旧車両を更新する資金を募り、目標金額の1,300万円を超える1,766万4,000円の寄附が寄せられました。新車両は8人乗りのハイブリッド車で、蘇生用具一式等が搭載されています。

新車両の導入に伴い、令和8年2月2日（月）午後1時30分から、アメニティ棟（立石プラザ）3階と救急・災害管理棟横において、式典とお披露目会が開催されました。寄附者、周辺4市1町と尾三消防本部のご来賓をはじめ、本学の関係者が出席しました。

式典では、祖父江元 理事長から「空路のドクターヘリに対し、陸路のラピッド・ドクターカーは、資材・医師・看護師・救命救急士等を現地に送る。或いは、救急車と合同し、いち早く救命活動を行う点で非常に高い機能を持つ。この車両が加わり更に活性化が進み、地域に貢献できると期待している」、



新導入のラピッド・ドクターカー

天野哲也病院長から「今後は、より幅広く多角的に、しかも複雑化する救急医療に対応することが出来る」との言葉が寄せられました。続いて、救急集中治療医学講座の渡邊栄三教授からは「救える命を必ず救うために託された使命は重大です。皆さんの思いの詰まった車両とともに、地域の救急医療を次のステージへ進めることを誓います」との決意が述べられました。この後、救急・災害管理棟横において、新車両の除幕式と記念走行が行われました。

新車両は当面、平日の日中の時間帯に医師、看護師等が周辺市町に出動し、三次救急の「病院前救急診療」を行います。

ドクターヘリ出動件数10,000件到達

令和8年3月9日（月）、本院のドクターヘリ出動件数が1万件に到達しました。【写真】地域の皆さまをはじめ、消防機関や関係医療機関など多くの方々のご理解とご協力に支えられ、運用開始から24年2か月でこの大きな節目を迎えることができました。

本院のドクターヘリは、救急専門医と看護師が搭乗し、救急現場へ直接出動して現場での救命処置を行いながら医療機関へ搬送する体制をとっており、その機能から「空のICU」とも称されています。迅速な初期治療と適切な医療機関への搬送を可能とし、重症患者の救命率向上に寄与しています。

本院では、平成14年1月から愛知県のドクターヘリ基地病院として運用が開始され、全国でも4番目の歴史を有する基地病院です。365日体制で運航し、



地域救急医療を支える重要な役割を担っています。

今後も関係機関との連携を一層深め、安全な運航の確保と質の高い救急医療の提供を通じて、地域の安心と安全の確保に貢献して参ります。

日本医師事務作業補助者協会理事長と 本院ドクターズクラークとの懇談会開催

令和8年2月20日（金）大学本館711特別講義室において、日本医師事務作業補助者協会の矢口智子理事長と本院ドクターズクラーク（医師事務作業補助者）との懇談会が開催されました。医師の働き方改革を推進する中で、病院収入への貢献と医師の勤務時間削減には、ドクターズクラークが果たす役割も大きくなっています。

懇談会の開催は、「ドクターズクラークの役割について」をテーマとして、今後の働き方や医師事務作業補助者目線でのアドバイスをいただき、チーム力やモチベーションを上げていくことを目的としています。

当日は、出席したドクターズクラークを2グループに分け、矢口理事長からのレクチャーを受けた後、質疑応答の時間が設けられました。働く女性としてのキャリアや実体験を交えた医師事務作業補助者の



矢口理事長のレクチャーを受けるドクターズクラーク

役割、今後に向けた生成AIの活用などを分かりやすくレクチャーしていただき、大変興味深いものとなりました。

今後も医師の働き方改革を推進する上で、先を見据えたドクターズクラークの体制を構築していきます。

令和7年度洋上救急慣熟訓練への参加

令和8年2月27日（金）中部空港海上保安航空基地において実施された「令和7年度洋上救急慣熟訓練」に、本院から救急集中治療医学講座の渡邊栄三教授（救命救急センター部長）をはじめ、看護師1名、事務職員1名が参加しました。

本訓練には、本院と藤田医科大学病院及び知多半島総合医療センターのスタッフが参加し、海上保安庁と連携の上、実践的な訓練が行われました。

洋上救急とは、航行中の船舶内で急病人や重症患者が発生した場合に、海上保安庁等の関係機関と連携し、医師・看護師が航空機等で現場へ向かい、船上での初期対応や医療処置を行った上で、必要に応じて患者を医療機関へ搬送する救急医療活動です。陸上から離れた海上という特殊な環境下において、迅速かつ的確な判断と高度な医療対応が求められます。

本院は、令和6年6月に公益社団法人日本水難救済会と「洋上救急業務の協力に関する協定」を締結



訓練の様子



参加者による記念撮影

し、体制整備を進めて参りました。

今後も、海上における緊急事案に的確に対応できるよう訓練を重ね、地域の救急医療体制を担う役割を果たして参ります。

令和7年度愛知DMAT隊員養成研修開催

令和8年3月14日（土）及び15日（日）の2日間にわたり、愛知県からの委託を受けて令和7年度愛知DMAT隊員養成研修が本院において開催されました。本研修は、災害時に迅速かつ的確な医療活動を実施できる人材の育成を目的としており、県内医療機関の医師、看護師、業務調整員等が参加し、本院からも3名が受講しました。

研修では、災害医療に関する講義に加え、机上演習やグループワークを行うとともに、大学本館1階を使用した救護所運営に関する実動訓練が実施さ

れ、より実践的な対応力の向上を図る内容で構成されました。また、これらの演習を通じて各医療機関の参加者同士が意見交換を行い、平時からの連携の重要性を再認識するとともに、医療機関間の交流を深める機会にもなりました。

本研修の修了者は、愛知DMAT隊員として認定され、県内における災害医療体制の強化に寄与することが期待され、今後の活動にも大きな役割を果たすことが見込まれます。

令和7年度ベストカルテ賞表彰式挙行

令和8年3月3日（火）に病院長室において、ベストカルテ賞の表彰式が行われ、令和7年度のカルテから選出された医師には天野哲也病院長から表彰状が手渡されました。

ベストカルテ賞は、各診療科で記載されたカルテを「チーム医療」「医療安全」等の観点から評価し、他の模範となり得る者を選出し、特に優秀であると評価されたカルテを作成した医師を表彰する制度であり、令和2年度から導入されました。

良質な医療は優れた診療記載から始まります。近年ではカルテ開示の件数も増え、カルテ記載の重要性が増しています。表彰された医師のカルテ記載方法を模範とすることで、より適切なカルテ記載の能力向上への一助となると期待されます。



天野病院長との記念撮影

ベストカルテ賞を受賞した医師は、次のとおりです。

- | | | |
|-----|-------------|---------------|
| 第1位 | 消化管内科 | 加藤 駿介助教 |
| 第2位 | 神経内科 | 木村 元哉助教(医員助教) |
| 第3位 | 周産期母子医療センター | 野村 幸伸助教 |

令和7年度卒後臨床研修修了証授与式挙行

令和8年3月13日（金）午後4時30分から大学本館たちばなホールにおいて、卒後臨床研修修了証授与式が挙行されました。式は、天野哲也病院長をはじめ、祖父江元 学長、笠井謙次医学部長、卒後臨床研修センターの中野正吾卒後臨床研修センター長、藤井公人統括副センター長及び専任教員の松村沙織が出席の中、整然と且つ厳かに執り行われました。

始めに中野センター長から、医科及び歯科それぞれのプログラム代表1名に修了証が手渡されました。そして、「専攻医となり、症例の経験のみでなく発表や論文に取り組んで欲しい」、「後輩の指導を引き続きお願いしたい」との告辞があり、その後、各出席者からの祝辞がありました。

今回修了した医科研修医32名、歯科研修医3名の



授与式後の記念撮影

うち、医科研修医29名が本院の医師として専門医や学位取得を目指すことになります。本院での臨床研修の経験を活かし、より一層精進されることが期待されます。

令和8年度新規採用職員ガイダンス開催

令和8年4月1日（水）に本院新規採用職員（採用・帰局医師、臨床研修医、看護職員及び医療職員等）計299名を対象として、新規採用職員ガイダンスが開催されました。大学本館たちばなホールと講義室合わせて3会場にて行い、講義内容は事前に撮影した映像を視聴する形式としました。

このガイダンスは、平成22年度から医療安全を始めとする各部門の院内ルールの周知徹底を目的に開催しています。まず、天野哲也病院長から「病院の概要及び経営方針」の説明や新規採用職員に対する

メッセージがあり、その後、各部門の責任者から業務内容、医療安全管理及び感染予防対策等の説明が行われました。どの講義も日常の診療業務に直結するものばかりであり、参加した新規採用職員は真剣な表情で受講していました。

今後、年度途中に採用される病院職員に対しても同様のガイダンスを行い、病院で従事する職員として必要な基本事項を習得した上で従事していただきたいと考えております。

令和8年度臨床研修医ガイダンス開催

令和8年4月1日（水）から8日（水）まで、新規採用医科研修医28名及び歯科研修医3名を対象として、本院における臨床研修に必要な基本的な事項についての「臨床研修医ガイダンス」が開催されました。

ガイダンスは、卒後臨床研修センターの中野正吾センター長による「医師としての心構え」の講話から始まり、その後の自己紹介の時間では互いの距離を縮める有意義な一時となりました。

続いて、感染管理室から感染予防演習や、臨床工

学部による各種医療機器の使用方法などの演習が行われました。その他、加納秀記副センター長の指導の下、BLS講習会が行われ、救命救急についての指導がありました。また、研修医向けにローテイト予定の診療科紹介時間が設けられ、希望のあった24診療科がそれぞれの診療科の特徴や指導内容についての紹介を行いました。

このガイダンス内容は、研修医にとって将来必ず役立つものと期待されます。

令和7年度看護師特定行為研修修了証授与式挙行

令和8年3月11日（水）午後1時から大学本館たちばなホールにおいて、令和7年度看護師特定行為研修修了証授与式が挙行されました。

本院では、特定行為研修指定医療機関として厚生労働省の認可を受け、令和2年度から看護師特定行為研修を開講しています。院外からの受講生を含むクリティカル領域10名、創傷管理領域6名、ジェネラル領域5名の21名が、講義・演習・OSCE・病院実習を経て、無事に修了式を迎えることができました。式では、特定行為研修管理委員長の井上里恵看護部長から修了証が手渡され、天野哲也病院長から今後の活躍を期待する激励の言葉をいただきました。

特定行為研修を修了した看護師は、医師と治療方針を確認し、患者さんの状態を見極め、手順書に従っ



修了者との記念撮影

て特定行為を実施することができます。患者さんの状態に合わせ、タイムリーに必要な医療行為を行うことで、安心し、満足していただける医療・看護が提供できることを目指していきます。

若葉ナース卒業式挙行

令和8年2月26日（木）大学本館たちばなホールにおいて、若葉ナース卒業式が挙行されました。今年度も感染対策として、出席者は若葉ナースと新人教育担当者に限定して行われました。部署から成長のお祝いと労いをメッセージスライドとして映写し、厳かで温かい卒業式となりました。

この式は、今年度で16回目の挙行となり、入職した新卒看護職員が1年間を振り返るとともに、指導に携わった全ての先輩と互いに成長を祝う会となっています。国家資格を取得し、初めて本院に入職した新卒看護職員「若葉ナース」は、名札に初心者マークを付けて看護実践に携わっていますが、この卒業式をもって初心者マークから卒業しました。

式では、井上里恵看護部長から新しい名札とともに若葉ナースコース研修を終えて、初めてのクリニカルラダー（JNAラダー統合版）新人レベル認定証が手渡され、新人教育担当者には労いの言葉が掛けられました。

部署では、卒業を迎えた若葉ナースと指導をした



井上看護部長による認定証の授与



会場の様子

看護師、責任者とともに1年間を振り返り、若葉ナースの成長とともに喜び分かち合いました。

令和8年度看護師特定行為研修開講式挙行

令和8年4月10日（金）午後1時から大学本館711特別講義室において、令和8年度看護師特定行為研修開講式が挙行され、受講生18名の参加がありました。

本院は、令和2年度から看護師特定行為研修の指定研修機関として厚生労働省の認可を受け、現在はクリティカル領域、創傷管理領域、ジェネラル領域の3領域を開講しており、令和7年度から区分別研修も開始しました。本院の特定行為研修では、急性期医療に加えて在宅医療、地域医療までを支えられる人材、また、地域・施設間の連携に参画できる人材育成を目指しています。

開講式では、天野哲也病院長から激励の言葉をいただき、看護師特定行為研修管理委員会委員長の萬谷和代看護部長からは、看護師の役割拡大が求めら



開講式後の記念撮影

れる中で、特定行為が担う役割や期待されることについてのお話がありました。

受講生からは、特定行為研修を通して高度な看護実践を身につけ、社会に貢献できる看護師を目指すという意気込みが伺え、凛とした表情で式に望む姿が見られました。

令和7年度第3回本院看護師特定行為研修シンポジウム開催

本院は、令和2年度に特定行為に係る看護師の研修制度の指定研修機関となり、多くの特定行為修了者を輩出してきました。令和8年3月29日（日）午後1時からシミュレーションセンターにおいて、第3回本院看護師特定行為研修シンポジウム「組織における特定行為研修修了者の活用促進」が開催され、現地10名、オンライン159名と多くの方に参加していただきました。

第1部は、千葉大学大学院看護学研究院先端実践看護学研究部門高度実践看護学講座の佐伯昌俊助教を招き、「組織における特定行為研修修了者の活用促進」をテーマに、特定行為研修修了者の組織的配置・活用を実現するための効果的な方策についてお話しいただきました。第2部は、「組織的に考える特定行為修了者の活用促進」をテーマに、部署固定配置（救急外来）・組織横断型配置（創傷管理）・具体的指示による実施（手術室）・具体的指示による実施（在宅領域）における実践を、本院看護部救急外来の宮澤恭子看護師長、本院看護部13A病棟の栗田祐里主任（褥瘡管理者）、独立行政法人地域医療



シンポジウム関係者による記念撮影

機能推進機構中京病院特定行為修了センターの長谷川明大氏、れんげ訪問看護ステーションの會田亜裕爾氏ら特定行為研修修了者4名の看護師から、それぞれの立場による発表があり、その後ディスカッションが行われました。

第1部・第2部ともに、特定行為研修修了者の活用促進について深く考える機会となりました。次年度のシンポジウムも、多くの方が参加できるような興味あるテーマにしたいと思います。

メディカルセンター令和7年度第2回防災訓練実施

令和8年2月17日（火）から3月3日（火）まで、愛知医科大学メディカルセンターにおいて、令和7年度第2回防災訓練が実施されました。例年、第1回の防災訓練では、日中に発災したことを想定した訓練を行い、第2回は夜間・休日想定の避難訓練を実施しています。

今回の訓練は、「夜間・休日の人手不足下での災害時の対応確認及び職員への意識付け」、「夜間・休日における職員不足により発生する改善点・問題点の洗い出し」、「医師（病院長代行）と職員との連携体制の確立」を目的に掲げ、訓練の開催規模を各病棟単位及び外来に狭めて「初動被害確認、通報、初

期消火、避難誘導」を含めたシナリオをそれぞれの現場の特性を鑑みて作成し、実施しました。

また、第2回防災訓練では、昨年度に引き続き医師が参加し、被災時の行動の確認が行われました。

当日参加者からは、「日頃からアクションカードの使い方をシミュレーションして、落ち着いて対応できるようにしたい」、「被害状況の確認に時間を要したため、普段から部署内にある設備の位置がすぐに把握できるようにしたい」などの声が聞かれました。

来年度以降も、より実働性の高い訓練の実施に努めて参ります。



病棟の被害状況報告の様子



腎臓病センターの被害状況報告の様子



エアーストレッチャー搬送訓練の様子

メディカルセンター第4回奥殿学区春まつり出展

令和8年3月28日（土）岡崎市立奥殿小学校において、第4回奥殿学区春まつりが開催されました。メディカルセンターからは健康啓発を目的とし、看護師による血圧測定・ベジチェック、診療放射線技師による子どもレントゲン探偵団のブースを出展しました。

会場には100名近くの地域住民の皆さまにご来場いただきました。特にベジチェックでは、日頃の野菜摂取量を可視化することで、生活習慣を見直すきっかけとなったとの声も多く聞かれました。また、子どもレントゲン探偵団では、子どもを中心に医療に親しみをもってもらう機会となり、笑顔溢れる交流の場となりました。

今回の参加を通じて、地域に根ざした医療機関としての役割と、地域とのつながりの大切さを改めて実感しました。今後もこのような活動を継続し、地域の健康づくりに貢献して参ります。



出展スタッフによる集合写真



ブースの様子

眼科クリニックMiRAI令和7年度防災訓練実施

令和8年3月19日（木）眼科クリニックMiRAIにおいて、防災訓練が実施されました。南海トラフ巨大地震発生時における名古屋市東区の予想震度である震度6強の揺れにより、クリニック地下室で小火が発生したケースを想定し、災害が発生した際の各自の具体的な動きを確認することを目的としています。本クリニックはマンション（東桜スカイハイツ）内にあることから、住民代表2名にも防災訓練にご参加いただきました。

当日は、名古屋市東消防署員の立会いの下、眼科クリニックMiRAI消防計画に基づき作成された対応フローに則り訓練が行われ、訓練後は委託業者による避難経路・避難方法について説明が行われました。

訓練後の振り返りでは、「アクションカードを基に素早く現場の確認に行くことができた」、「診察室



訓練を実施したクリニック職員及び
マンションの住民代表

側のトイレを確認し忘れていた」、「消火器を实际使ったことがないので、実技で使用方法を知りたい」などの意見がありました。

火災発生時に職員が適切で円滑な対応ができるよう、今後もより一層実用性のある訓練の実施に努めて参ります。

一般財団法人愛知医科大学愛恵会トピックス 立石池の桜だより



一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、令和5年から立石池「桜」整備事業を行っております。2年にわたる52本の植樹は既に完了しており、今年度は植樹後3年目と2年目の開花を迎えました。少しずつではありますが、確実に成長する桜の姿に、若い息吹を感じております。

一般的には、開花の5日～7日後に満開を迎えることが多いとされており、今年の名古屋におけるソメイヨシノの開花日は令和8年3月17日（月）でした。立石池の桜は例年やや遅れて開花する傾向があり、今年も3月末から4月第1週頃にかけて満開を迎え、4月5日（日）の入学式にも間に合いました。立石池周辺では、春の訪れを感じながら足を止めて桜を眺める方の姿も見られ、穏やかな時間が流れて



植樹後3年目のソメイヨシノ

おりました。

今後も桜の成長を見守りながら、皆さまに親しまれる景観となることを願っております。

愛知医大サービス株式会社 入学式にて特設売店出店

愛知医科大学のオリジナルグッズを企画・製作・販売している愛知医大サービス株式会社が、令和8年4月5日（日）の入学式当日に、大学本館1階でお祝いの気持ちを込めて出店しました。【写真】

当日、会場では、新たな一步を踏み出す新入生と、それを見守るご家族・ご親族の方々の笑顔に溢れ、前を通る新入生に「おめでとうございます」と声がけした際には、晴れやかな表情や、少し照れた様子が伺え、会場は和やかな雰囲気になっていました。

ご家族やご親族へのお土産としてクッキーやおかきをお求めになる方、一人暮らしを始める子供にタオルを購入される方など、それぞれの思いを込めて商品を選ばれている様子が印象的でした。また、「記念に」とオリジナルグッズを手にとっていただく場



面も多く見られました。

今後も愛知医大サービスでは、皆さまに喜んでいただける商品や企画をお届けできるよう努めて参ります。

福澤 嘉孝名誉教授 一般社団法人日本珪素医科学学会名誉理事長証授与

福澤嘉孝名誉教授が、令和8年2月21日（土）午後3時20分から名古屋名鉄グランドホテル11階柏の間で開催された一般社団法人日本珪素医科学学会（JMSIS）第43回学術発表会において、同会の名誉理事長（永代）として認定され、証書及び楯【写真】が授与されました。

本件は、同学会理事長として多年にわたり世界初となる「水溶性珪素のヒト臨床試験」の実施を始め、珪素医学における確固たるエビデンスの構築に尽力し、同学会の発展に多大に貢献したことを称えられたものです。

認定を受けた福澤名誉教授からは、「このたび、日本珪素医科学学会（JMSIS）より『名誉理事長（永代）証』の栄誉を賜り、身に余る光栄に存じます。世界初の水溶性珪素のヒト臨床研究という未知の領



域に挑戦できたのは、志を共有した研究者・臨床医・コメディカルの皆さまのご支援とご協力の賜物です。珪素医学の更なる進化発展を願い、今後も科学と人間愛の融合（共生）を礎に、国際的視点から学術の深化（進化）と社会貢献に尽力ながら邁進して参ります」との感想がありました。

内科学講座（血液内科）水野 昌平准教授による論文がAmerican Journal of Hematology誌に掲載

内科学講座（血液内科）の水野昌平准教授による論文「Impact of Total Body Irradiation Dose in Reduced-Intensity Conditioning for Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation in Acute Myeloid Leukemia. American Journal of Hematology.2026.」が、血液内科領域で著名な学術誌「American Journal of Hematology」へ掲載されました。

本論文は、急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植において、強度減弱前処置における全身放射線照射（TBI）の線量が移植成績に与える影響を本邦の大規模レジストリーデータを用いて解析し、低線量TBIの併用が生存率の改善と関連する可能性を明らかにしたものです。

水野准教授からは、「本研究は、急性骨髄性白血病に対する移植前治療の最適化に重要な知見を示すものであり、今後の移植治療戦略の検討にも寄与することが期待されます。これらの研究成果が、国際的に権威ある学術誌に掲載されたことを大変光栄に存じます。本研究の遂行に当たり、内科学講座（血液内科）の高見昭良教授、造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座の熱田由子教授を始め、多くの先生方から多大なるご指導・ご支援を賜りましたことに心より深く感謝申し上げます。今後も臨床および研究活動を通じて、本学の発展と血液疾患診療の向上に貢献できるよう一層精進して参ります」との感想がありました。

卒後臨床研修センター近藤 竜徳臨床研修医 第258回日本内科学会東海地方会若手優秀演題賞受賞

卒後臨床研修センターの近藤竜徳臨床研修医が、令和8年2月15日（日）午後3時20分からウインクあいちで開催された第258回日本内科学会東海地方会において、若手優秀演題賞を受賞しました。

この賞は、若手内科医の育成を目的として設けられたものであり、近藤臨床研修医の発表演題「口蓋病変を併発した肝MALTリンパ腫の1例」が優秀であると評価されたものです。

受賞した近藤臨床研修医からは、「若手優秀演題賞を受賞でき、大変光栄に思います。指導医の先生方にご指導いただいたおかげであり、深く感謝申し上げます。考察をまとめる過程では難しさも感じま



指導医の先生との記念撮影（近藤さん中央）

したが、この経験を糧に今後も臨床や学術に積極的に関わり、更なる研鑽に励んで参ります」との感想がありました。

事務職員資格・検定等取得

学是「具眼考究」を踏まえたSD（スタッフ・デベロップメント）実施に関する基本方針のもと、事務部門では、「具眼」に当たる具体的な取り組みとして、業務遂行に必要な知識習得に積極的に取り組んでいます。令和7年度は7名の事務職員が以下に掲載している資格・検定試験等の他に色彩検定3級などの各担当業務に直結する試験等を受験し合格しました。今後は習得した知識や技能を業務に活かしながら、更なる自己研鑽による成長が期待されます。



合格者による記念撮影

取得日	資格・検定試験等の名称	所 属	氏 名
R 7. 5.11	Microsoft Office Specialist Access 2019 Expert	経営戦略推進事務室	伊藤 友一 主任
R 7. 9.20	準デジタルアーキビスト	総務部図書館事務室	市川美智子 主査
R 7.12.13	Microsoft Office Specialist Excel Associate Microsoft 365 Apps	医学部事務部学生課	小嶋梨紗子 主事
R 7.12.24	一級建築士	施設管財室施設課	吉川 実希 主事
R 7.12.25	応用情報技術者	人事厚生室給与労務課	小塚 光 主任
R 8. 3.13	院内がん登録実務中級者	病院事務部医務課	杉浦 芳奈 主任

※ 氏名及び写真の掲載は承諾者のみ。資格・検定試験等の合格時の所属と役職を記載

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

【開催日】

【会長等】

・第109回日本脳神経外科学会中部支部学術集会

令和8年4月4日（土）

渡邊 督

第109回日本脳神経外科学会中部支部学術集会

脳神経外科学講座・教授 渡邊 督

令和8年4月4日（土）に第109回日本脳神経外科学会中部支部学術集会を開催する機会をいただきました。開催場所は、名古屋栄の新しくリニューアルした中日ビルで執り行いました。交通の便も良く、183名と多くの方にご参加いただきました。

この会は、主に症例報告などを中心として若手の発表の場として重要であり、中部地区の教授陣が朝から晩まで目を光らせて聴講しているので、多くの貴重なコメントや指摘を受けることができ、大変有意義な会です。私自身も、この会で育てられた思いがあります。

今回は、同時に市民公開講座も企画し、会に先立っ

て本学のたちばなホールで3月22日（日）に実施させていただきました。この模様につきましては広報部門のご協力でご協力でYouTubeで視聴できるようにしていただいています。

本会終了後には、引き続き中部神経内視鏡研究会も開催し、夕方からの開始にも関わらず多くのご参加をいただき、熱い意見交換が行われました。

新しい会場での開催は何かと細かい調整が必要でしたが、皆さまのご協力により、大きなトラブルもなく終了できましたことに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



中楚 友一郎

学位授与番号 甲第713号

学位授与年月日 令和8年2月12日

論文題目:「Long-Term Effects of a Chronic Pain Management

Program ('PAIN CAMP') on Refractory Chronic Pain Classified by ICD-11: A Single-Arm Intervention Study (ICD-11に基づき分類された難治性慢性疼痛に対する慢性疼痛マネジメントプログラム ("PAIN CAMP") の長期効果:単群介入研究)」



石川 拓郎

学位授与番号 甲第714号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Atorvastatin exhibits anticancer effects by inhibiting

YAP/TAZ activity in mesenchymal-like non-small cell lung cancer (アトルバスタチンは間葉系非小細胞肺癌においてYAP/TAZ 活性を阻害することで制がん効果を発揮する)」



井面 利昂

学位授与番号 甲第715号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Characterization of Tumor Immune Microenvironment in

Meningiomas: Correlation of Tumor-infiltrating Lymphocyte Aggregates With Tumor Grade (髄膜腫における腫瘍免疫微小環境の特徴:腫瘍浸潤リンパ球凝集体とグレードとの相関)」



岩田 侑真

学位授与番号 甲第716号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Transcriptomic Profiling Reveals Mechanisms of Anoikis

Resistance in Spheroid-Cultured Human Umbilical Cord Mesenchymal Stem Cells (スフェロイド培養ヒト臍帯由来間葉系幹細胞のトランスクリプトーム解析によるアノイクス抵抗機構の解析)」



KALACZYNSKA ELZBIETA

学位授与番号 甲第717号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Thickness of the Medial Pretarsal Adipose Tissue in the

Upper Eyelid among the Japanese Population (日本人における内側前瞼板脂肪組織の厚み)」



國友 愛奈

学位授与番号 甲第718号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Understanding the Patient Perspective in Low Anterior

Resection Syndrome: Which Symptoms Matter Most? (低位前方切除症候群における患者の視点の理解:どの症状が最も重要か?)」



中村 宏舞

学位授与番号 甲第719号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Immune Status of Cervical Lymph Nodes in Head and Neck

Cancer-A Surgical Oncology Perspective (頭頸部癌における頸部リンパ節の免疫状況について-腫瘍外科医からの視点-)」



ALAMGIR HOSSAIN

学位授与番号 甲第720号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Rho kinase 2 promotes epithelial-mesenchymal transition

and proliferation in human prostate cancer PC-3 cells (Rhoキナーゼ2はヒト前立腺癌PC-3細胞の上皮間葉転換と増殖を促進する)」



宮崎 成美

学位授与番号 甲第721号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Efficacy of hydrogen peroxide vaporizing against

methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*, extended-spectrum β -lactamase-producing bacteria, and *Clostridioides difficile* (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、基質拡張型 β -ラクタマーゼ産生菌およびクロストリジオイデス・ディフィシルに対する蒸気化過酸化水素の有効性に関する検討)」



吉田 知加

学位授与番号 甲第722号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Lipoproteins from *Bilophila wadsworthia* cell wall

induce innate immune responses through Toll-like receptor 2 (*Bilophila wadsworthia*の細胞壁由来のリポタンパク質はToll様受容体2を介した自然免疫反応を誘導する)」



川村 皓生

学位授与番号 甲第723号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Association between oral frailty and sarcopenia among

frailty clinic outpatients: A cross-sectional study (フレイル外来患者におけるオーラルフレイルとサルコペニアの関連)」



佐藤 圭祐

学位授与番号 甲第724号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Reduced trunk muscle mass in patients with stroke is

associated with reduced balance function recovery (脳卒中患者における体幹筋量の減少はバランス機能回復の低下と関連する)」



橋本 康平

学位授与番号 甲第725号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Comparison of Different Materials in the Same-Sized

Cemented Stems on Periprosthetic Fractures in Bone Models (同一サイズのセメント固定ステムにおける材料の違いと人工関節周囲骨折: 骨モデルによる検討)」



大橋 隆久

学位授与番号 甲第726号

学位授与年月日 令和8年3月12日

論文題目:「Heat-Killed *Enterococcus faecalis* EF-2001 Promotes Systemic

Th1-Skewed Immune Activation Without Detectable Reduction of Influenza Viral Load in Mice (加熱殺菌*Enterococcus faecalis* EF-2001株はマウスにおいてインフルエンザウイルス量の減少を伴わずに全身性のTh1偏向性の免疫活性化を促進する)」



福島 拓

学位授与番号 甲第727号

学位授与年月日 令和8年3月12日

論文題目:「PHF2 regulates sarcomeric gene transcription in myogenesis

(PHF2は筋形成においてサルコメア遺伝子の転写を制御する)」



坂野 福奈

学位授与番号 甲第728号

学位授与年月日 令和8年3月19日

論文題目:「Prophylactic Pegfilgrastim Versus On-Demand Filgrastim

During Docetaxel and Cyclophosphamide Chemotherapy in Early-Stage Breast Cancer: A Retrospective Analysis (早期乳癌におけるドセタキセル+シクロホスファミド療法中の、ペグフィルグラスチムの予防的投与と必要時投与の比較: 後向き解析)」



米澤 利幸

学位授与番号 乙第443号

学位授与年月日 令和8年2月12日

論文題目:「Clinical characteristics of pulmonary infections caused by

Exophiala dermatitidis (*Exophiala dermatitidis*による肺感染症の臨床的特徴)」



加藤 翔子

学位授与番号 乙第444号

学位授与年月日 令和8年2月26日

論文題目:「Postoperative pain after laparoscopic percutaneous

extraperitoneal closure for inguinal hernia in children: a single-center retrospective study (小児鼠径ヘルニアにおける腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖の術後疼痛)」

◆大学院看護学研究科



五十嵐 一希

学位授与番号 第204号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「集中治療室入室早期に死の転帰を迎える患者の家族に対する

診療看護師 (NP) の実践」



大溝 那奈

学位授与番号 第205号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「病棟看護師のRapid Response Team要請判断とクリ

ティカルシンキングおよび心理的安全性の関連～尺度を用いたアンケートによる実態調査型研究～」



曽嶋 哲也

学位授与番号 第206号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「長期間介護する高齢家族介護者が訪問看護師に夜間電話相

談する際の感情と行動」



田原 健成

学位授与番号 第207号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「へき地におけるヘルスケアシステムの構築に向けた診療看

護師 (NP) の実践」



西村 浩一

学位授与番号 第208号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「国内外の災害支援に従事した国際緊急援助隊 (JDR) およ

び災害派遣医療チーム (DMAT) 看護師のストレス体験」



溝口 龍太郎

学位授与番号 第209号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目:「Emergency Intensive Care Unit退室患者の再入室を予測

する因子の検討～単施設後向き観察研究～」



山口 朝暉

学位授与番号 第210号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目：「地震災害において災害
派遣医療チーム（Disaster Medical

Assistance Team:DMAT）看護師として活動した
診療看護師（NP）の実践」



山下 葉月

学位授与番号 第211号

学位授与年月日 令和8年3月7日

論文題目：「集中治療領域における
診療看護師（NP）のDNAR（Do Not

Attempt Resuscitation）に関する代理意思決定支
援」

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員とした来学された方をご紹介します。（敬称略）



アラムギル フセイン
ALAMGIR HOSSAIN

国 籍：バングラデシュ

現 職：チッタゴン大学

生化学・分子生物学部

EuGEF研究グループ

研究助手

受入講座：生理学講座

受入期間：R8.4.1～R9.3.31（12か月）

研究課題：転写因子（MITF）によるがん悪性形質
の制御



ミラブロア アリアクバロフ
MIRABROR A. ALIAKBAROV

国 籍：ウズベキスタン

現 職：共和国救急医療研究セン

ター脳神経外科レジデン

ト

受入講座：脳神経外科学講座

受入期間：R8.4.6～R8.6.30（3か月）

研究課題：脳腫瘍に対する神経内視鏡手術の学習

研究助成等採択者

◇日本外科代謝栄養学会

2025年度臨床研究推進事業

・氏 名 渡邊栄三(救急集中治療医学講座・
教授)

研究題目 敗血症病態におけるアミノ酸調
整栄養療法を介したオートファ
ジー障害抑制による効果と病態解
明

助成金額 4,000,000円

◇公益財団法人高齢者眼疾患研究財団研究助成

・氏 名 三木 篤也(近視進行抑制寄附講座・
教授(特任))

研究題目 視野検査による患者負担の定量的
評価法の確立

助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人堀科学芸術振興財団

2025年度（第34回）研究助成事業

・氏 名 小野寺一成(加齢医科学研究所(神
経iPS細胞研究部門)・助教)

研究題目 疾患特異的iPS細胞を用いた球脊
髄性筋萎縮症（SBMA）の病態解
析

助成金額 2,000,000円

・氏 名 山村 彩(生理学講座・講師)

研究題目 女性ホルモン代謝産物によって
制御されるミトコンドリア破綻機
構の解明

助成金額 2,000,000円

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

働き方改革の実施に伴う臨床系教員の勤務時間等の特例に関する規程の一部改正

臨床系教員の勤務時間等に関する特例を定める規程が一部改正され、勤務形態の柔軟な運用に関する取り扱いを、現状に即して整備しました。

施行日は令和8年4月1日

経理規程の一部改正

経理規程の一部が改正され、財務・会計処理に関する取り扱いの適正化が図られました。

施行日は令和8年3月23日

名誉学長授与規程の制定

名誉学長授与規程が制定され、名誉学長の称号授与に関する基準及び手続きが定められました。

施行日は令和8年3月23日

学長による研究活動に関する規程の一部改正

学長による研究活動に関する規程の一部が改正され、研究活動の推進及び管理に関する取り扱いが整理されました。

施行日は令和8年3月23日

大学ホームページ運営委員会規程の一部改正

大学ホームページ運営委員会規程の一部が改正され、運営委員会委員会構成者の整理が図られました。

施行日は令和7年10月1日

医学部教務委員会規程の一部改正

教務委員会規程の一部が改正され、委員会の所掌事項及び運営方法について見直しが行われました。

施行日は令和8年4月1日

医学部学生生活委員会規程の一部改正

学生生活委員会規程の一部が改正され、委員会の役割及び審議事項が整理されました。

施行日は令和8年1月1日

医学部履修規程の一部改正

医学部履修規程の一部が改正され、履修要件及び教育課程の運用に関する事項が見直されました。

施行日は令和8年4月1日

医学部学生のクラブ活動に関する活動基準の一部改正

医学部学生のクラブ活動に関する活動基準の一部が改正され、課外活動への参加許可に関する基準が見直されました。

施行日は令和8年4月1日

看護学研究科履修規程の一部改正

看護学研究科履修規程の一部が改正され、履修方法及び単位認定に関する事項が見直されました。

施行日は令和8年4月1日

看護学部履修規程の一部改正

看護学部履修規程の一部が改正され、教育課程の円滑な運用に向けた履修上の取り扱いが整理されました。

施行日は令和8年4月1日

副院長規程の一部改正

大学病院副院長規程の一部が改正され、副院長の職務内容及び役割分担が明確化されました。

施行日は令和8年4月1日

職員研修管理委員会規程の制定

職員研修管理委員会規程が制定され、本院における職員研修に関する企画・管理体制が整備されました。

施行日は令和8年3月1日

総合学術情報センター（図書館部門）利用規程の一部改正

総合学術情報センター（図書館部門）利用規程の一部が改正され、利用ルールが見直されました。

施行日は令和8年4月1日

編 集 後 記

☆ 本号から表紙の題字を羽生田理事長に新しくご執筆いただきました。執筆の様子を本学公式Instagramでもご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

また、理事長就任ごあいさつ（関連記事2頁）にて、本学の最重要課題である財務基盤の立て直しのため、「組織・ガバナンス改革」、「人事・給与制度改革」、「医師の働き方改革」を柱とした改革の方針が示されました。約300名の教職員が出席した所信表明では、本学の将来像や目指す方向性が共有され、大学の更なる発展に向けて一人ひとりが思いを新たにする機会となりました。

【広報課】

学報の送付を辞退される方は、広報課までご連絡ください。



X



Instagram



YouTube

愛知医科大学公式SNS (@aichi_med_u)
では大学・病院の最新情報を発信中です。

愛知医科大学学報 第182号

発行年月日 令和8年4月30日

発 行 学校法人 愛知医科大学

発 行 人 羽生田 正行

編 集 人 長谷川 洋

連 絡 先 〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

学校法人愛知医科大学広報室広報課

☎ (0561) 62-3311 (代表)

☎ (0561) 76-1181 (直通)